

バス利用および今後の交通まちづくりに関するアンケート結果

アンケート調査の概要は、以下のとおりである。

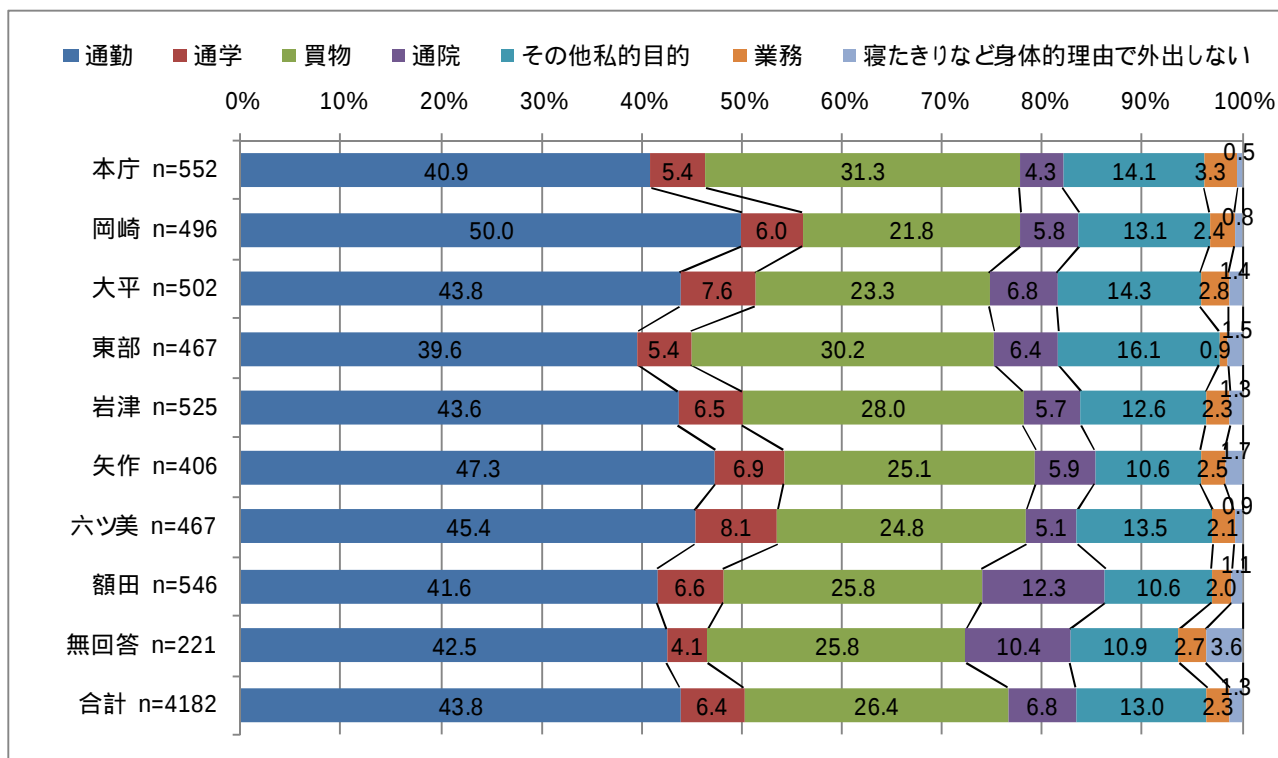
- (1) アンケート方法 : 郵送配布・郵送回収、バス車内配布・郵送回収
- (2) 対象者抽出方法 : 住民基本台帳より無作為抽出
- (3) アンケート配布日 : 2010 年 10 月 30 日 (土)
- (4) アンケート回収締切日 : 2010 年 11 月 15 日 (月)
- (5) アンケート質問項目 : 11 項目
 - ・ 問 1 平日の主な交通行動
 - ・ 問 2 バスの利用環境と利用頻度
 - ・ 問 3 路線バスの維持に関する対応と必要な理由、支援の可能性、地域公共交通維持の考え方
 - ・ 問 4 岡崎市の公共交通事業の取組みに対する認知度、各種公共交通事業による公共交通利用機会および利用に対する意識の変化
 - ・ 問 5 都心地域 (康生地区～東岡崎駅周辺～JR岡崎駅周辺) における各種交通手段の利用環境に対する満足度
 - ・ 問 6 個人属性
 - ・ 問 7 自由意見
- (6) 回収率 : 39.2% (回収数 : 4,151 / 配布数 : 10,600)
 - バス利用者への配布数 : 158
 - 合計回収数 4,309

平成 23年 2月

問 1 平日の主な交通行動についてお答えください。

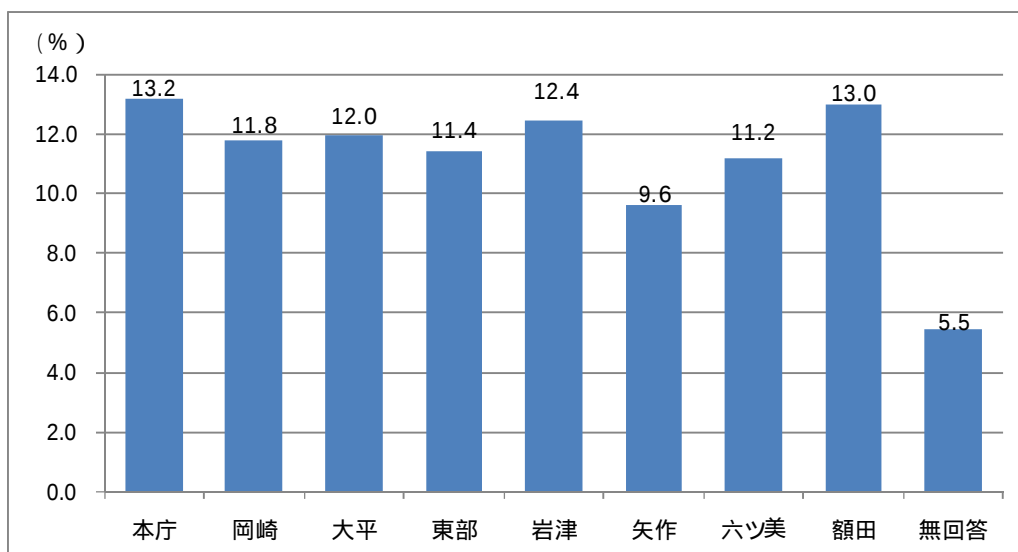
平日の主な外出目的をお答えください。

岡崎市市全体では、通勤が 43.8%、買物が 26.4%、その他私的目的が 13.0%である。
また、通院が 6.8%を占め、寝たきりなど身体的理由で外出しない人が 1.3%存在する。
額田地区では通院割合（12.3%）が相対的に高い。



目的不明（無回答）を除く

【地区別・回答者数構成】

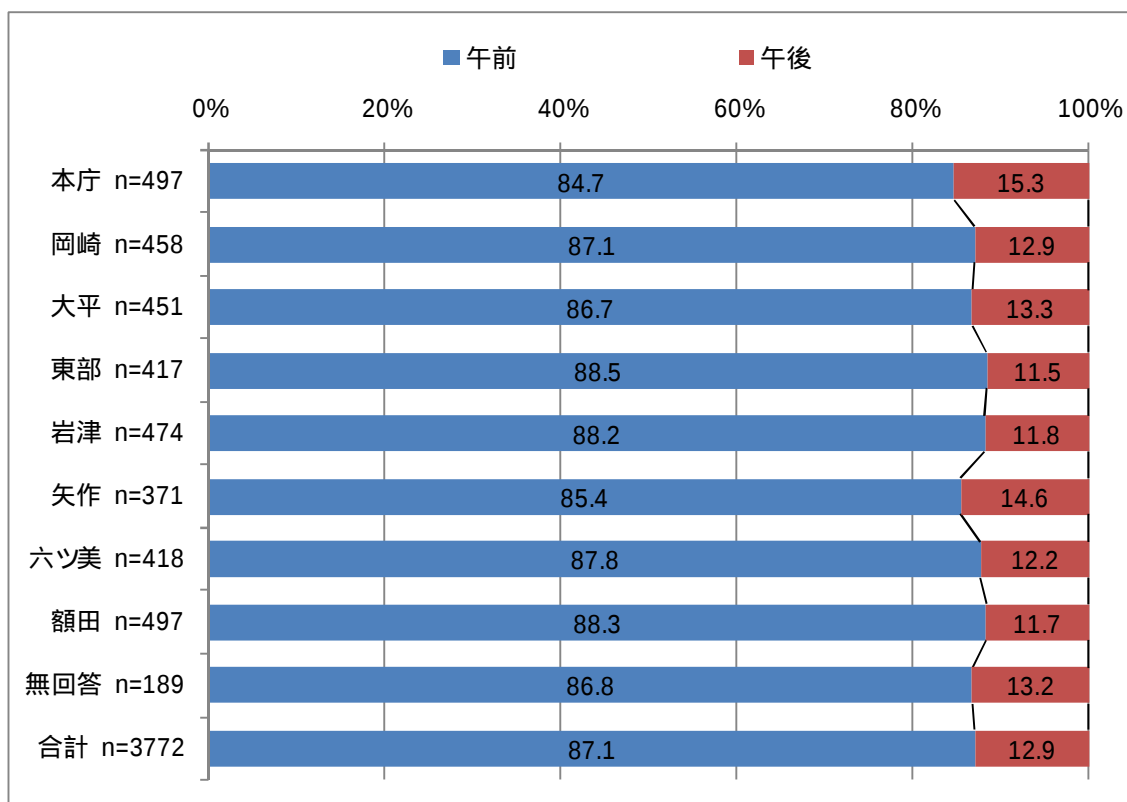


アンケート回答者数 4,309名
(回答 4,073 名 無回答 236 名)

出発時刻と所要時間をご記入ください。

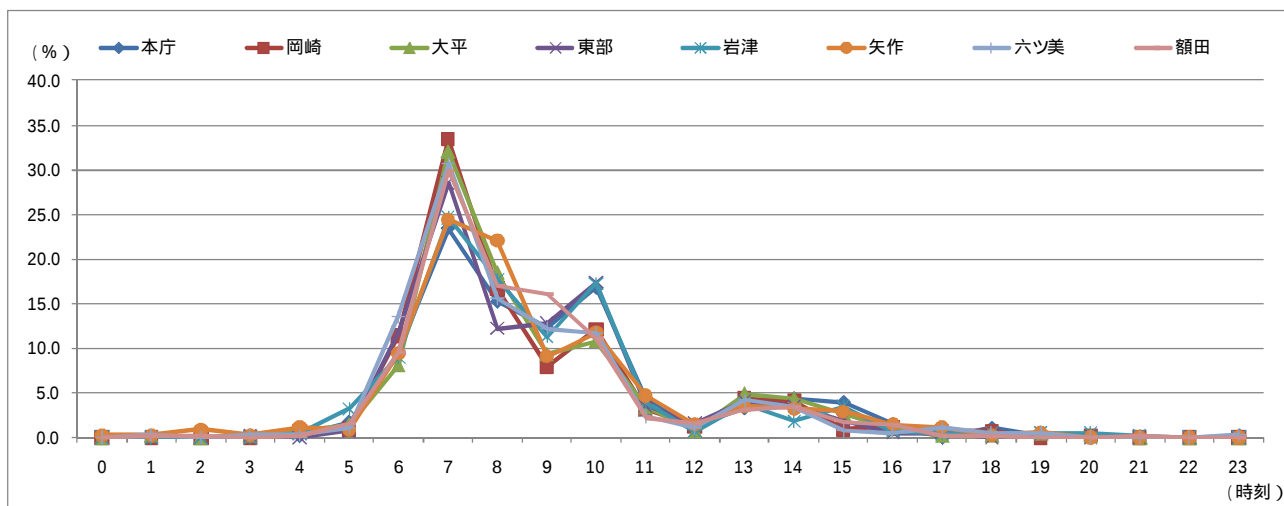
【午前・午後の区分】

出発時刻の 87% は午前中である。



【時間帯別移動人数】

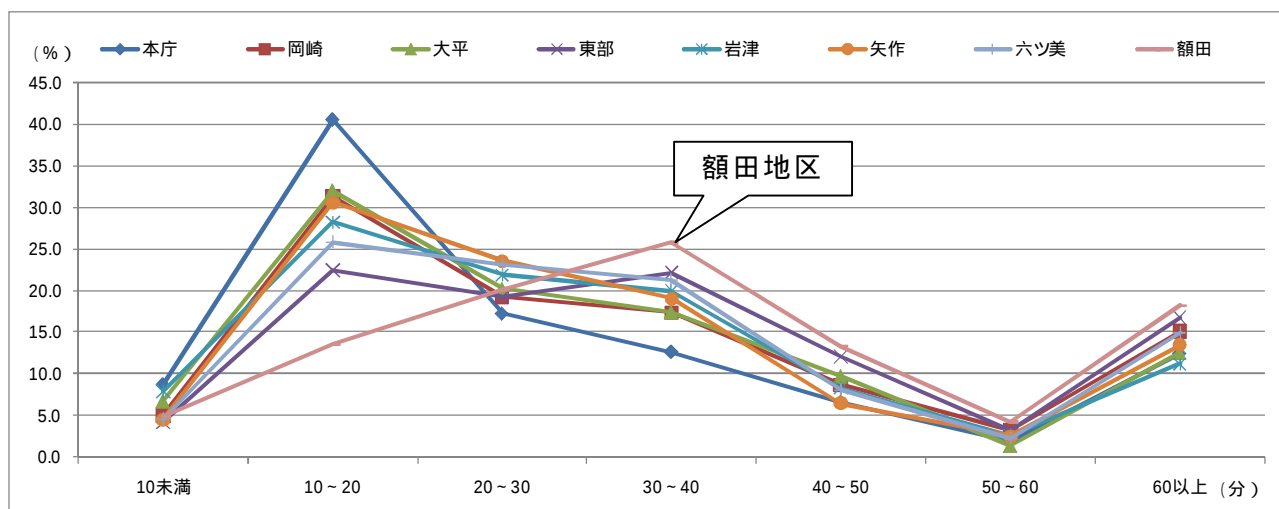
発時刻のピークはどの地区も 7時台にある。



【所要時間帯別人数】

10～20分の行動の割合が高い。

額田地区に居住している人の所要時間のピークは30～40分であり、他の地区より長い。



主に利用する交通手段は何ですか。

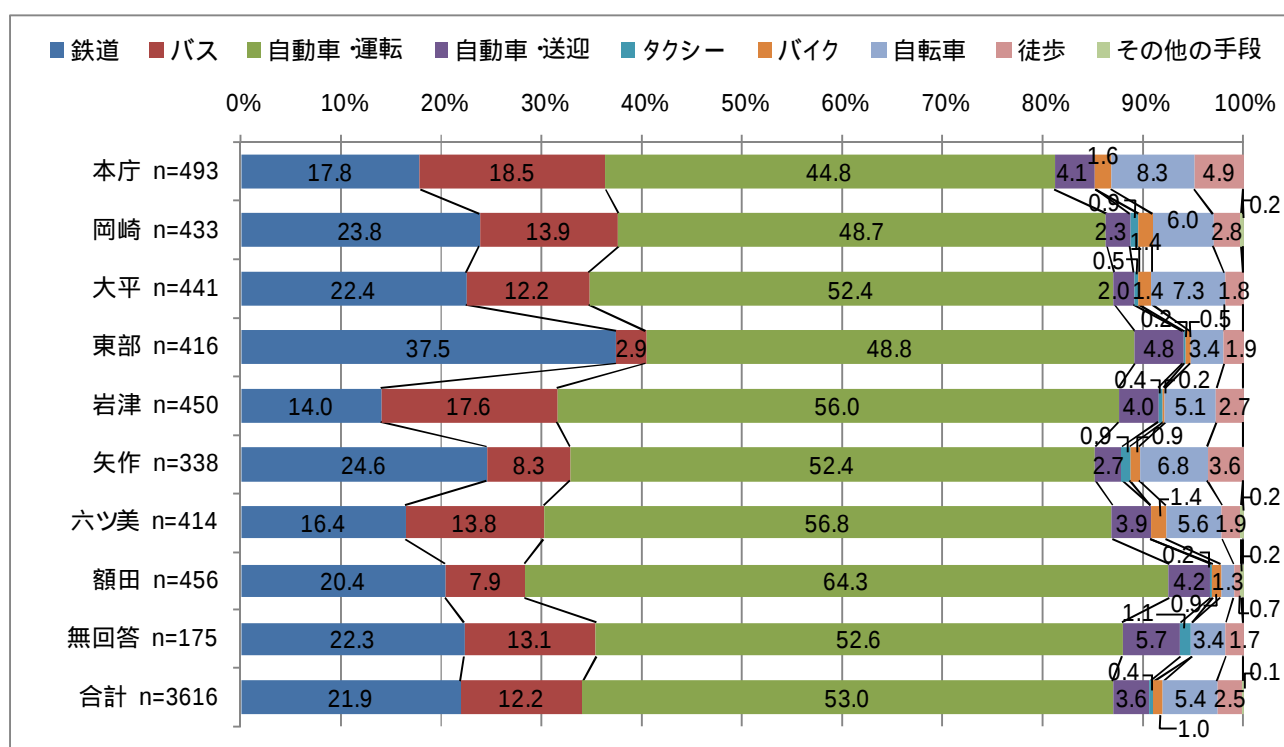
鉄道利用割合は、東部地区で最も高く 37.5%、次に矢作地区、岡崎地区、大平地区であり、岩津地区が最も低く 14.0%である。

バス利用割合は東岡崎バスターミナルがある本庁地区で最も高く 18.5%である。

利用割合が低い地区として東部地区（2.9%）、額田地区（7.9%）、矢作地区（8.3%）があげられる。

自動車利用（自分で運転）割合はどの地区も高く、全体で 53.0%である。

自転車利用割合は平均 5.4%に対し、本庁地区（8.3%）、大平地区（7.3%）、矢作地区（6.8%）で相対的に高く、額田地区（1.3%）では低い。



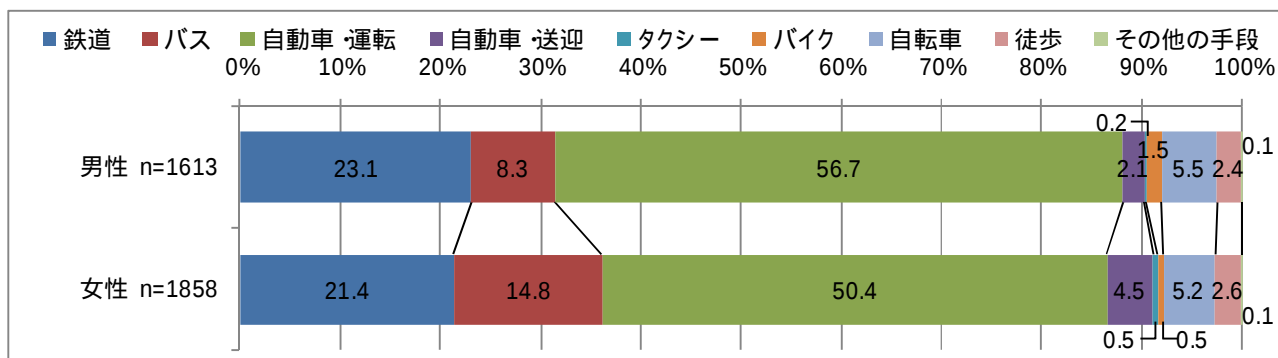
利用手段不明を除く

(%)

居住地区	鉄道	バス	自動車運転	自動車送迎	タクシー	バイク	自転車	徒歩
本庁	17.8	18.5	44.8	4.1	0.0	1.6	8.3	4.9
岡崎	23.8	13.9	48.7	2.3	0.9	1.4	6.0	2.8
大平	22.4	12.2	52.4	2.0	0.5	1.4	7.3	1.8
東部	37.5	2.9	48.8	4.8	0.2	0.5	3.4	1.9
岩津	14.0	17.6	56.0	4.0	0.4	0.2	5.1	2.7
矢作	24.6	8.3	52.4	2.7	0.9	0.9	6.8	3.6
六ツ美	16.4	13.8	56.8	3.9	0.0	1.4	5.6	1.9
額田	20.4	7.9	64.3	4.2	0.2	0.9	1.3	0.7
無回答	22.3	13.1	52.6	5.7	1.1	0.0	3.4	1.7
合計	21.9	12.2	53.0	3.6	0.4	1.0	5.4	2.5

男女別にみると女性は鉄道、バスの利用率が高く、男性は自動車、バイクの利用率が相対的に高い。

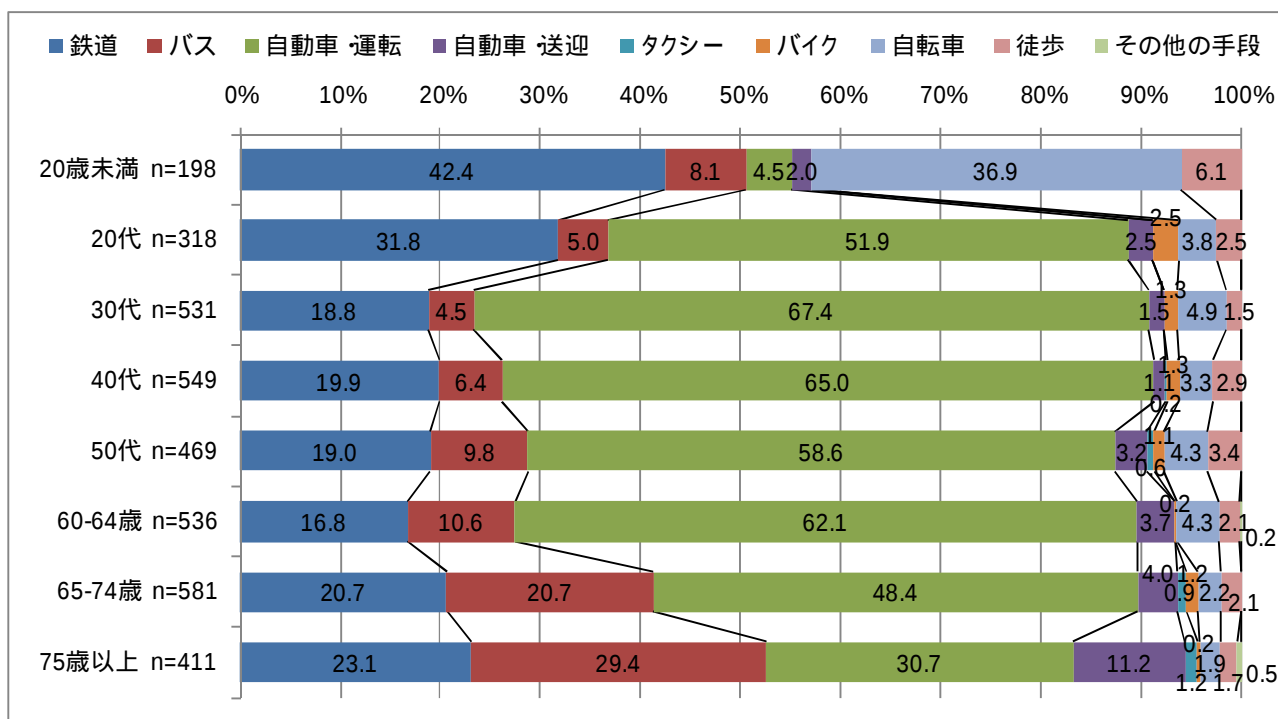
【男女別利用交通手段】



年齢階層別にみると、20歳未満、20代は鉄道の利用率が高く、20歳未満は自転車の利用率が高い。

65歳以上はバスの利用率が高くなり、自動車(自分で運転)の利用率は低くなっている。

【年齢階層別利用交通手段】



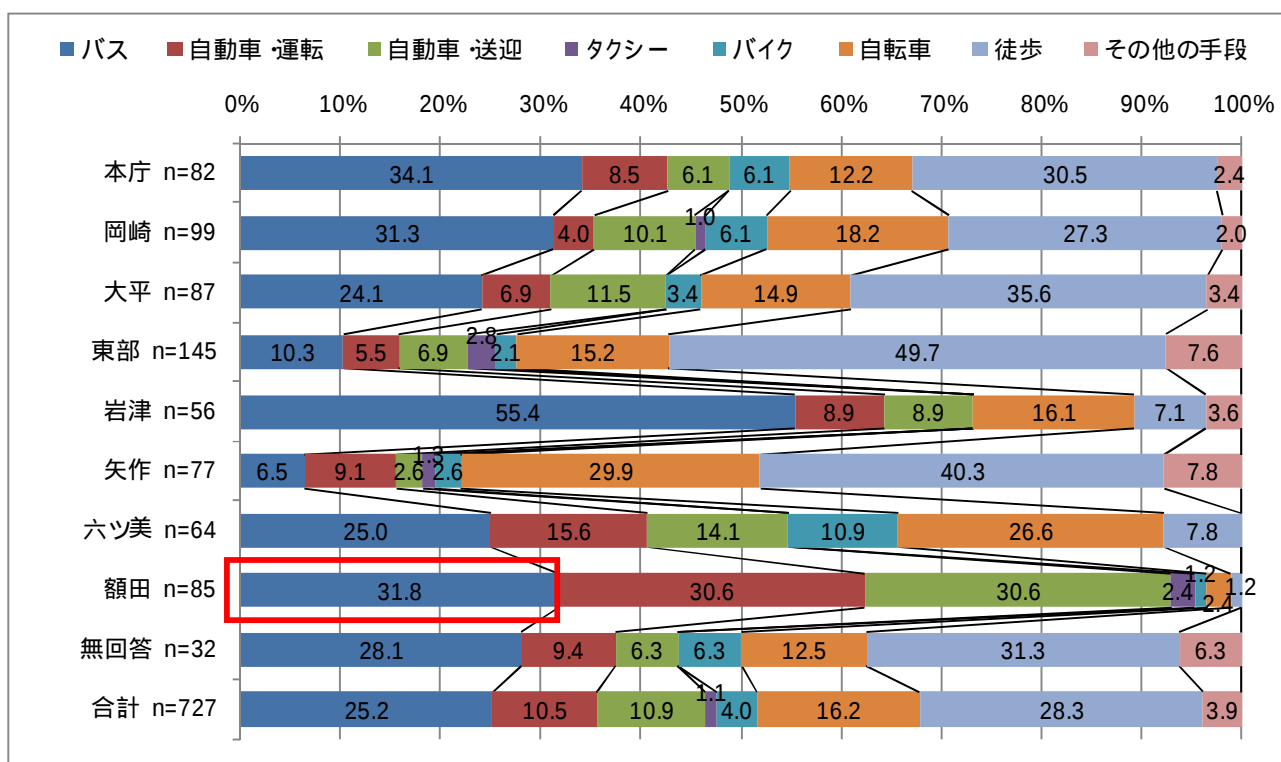
鉄道およびバス（まちバスや乗合タクシーを含む）を利用される方は、乗車駅・バス停の名称とそこまでの交通手段と所要時間および降車駅・バス停の名称とそこからの交通手段と所要時間をお答えください。

【鉄道利用 乗車側交通手段】

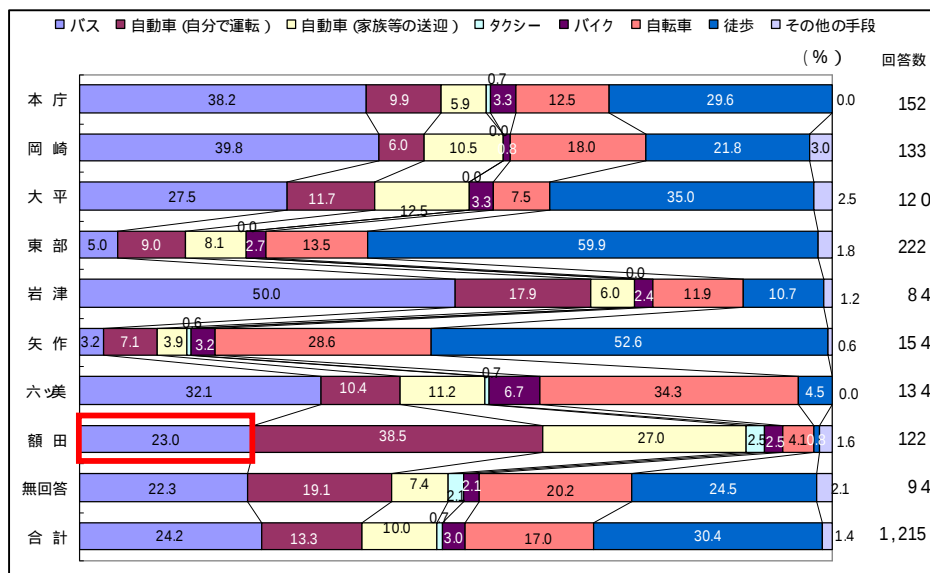
徒歩割合が最も高く市全体では 28.3% を占めている。特に駅周辺に人口が集積する東部地区（49.7%）、矢作地区（40.3%）の割合が高い。

バス利用割合は岩津地区（55.4%）や本庁地区（34.1%）、額田地区（31.8%）で高く、駅周辺に人口が集積する東部地区（10.3%）、矢作地区（6.5%）で低い。3年前と比較し乗合タクシーが導入された額田地区で 8.8 ポイントと大きく増加している。

自転車利用割合は矢作地区（29.9%）、六ツ美地区（26.6%）で高く、本庁地区（12.2%）で低い。



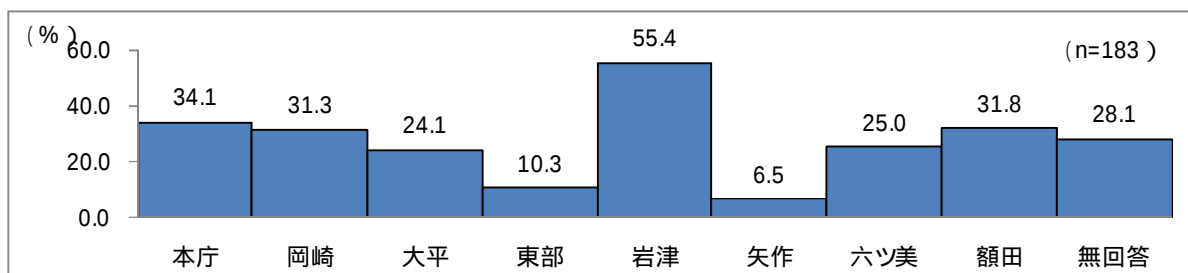
利用手段不明を除く



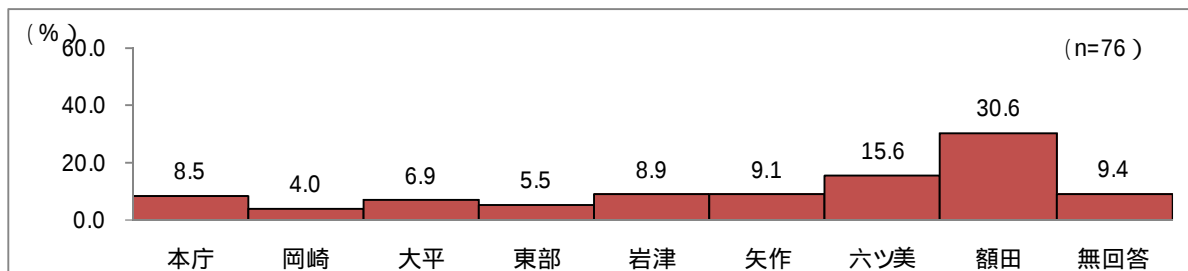
日常の交通実態とバス利用に関する市民アンケート（H19.7）

【駅までの利用交通手段の地区別利用割合】

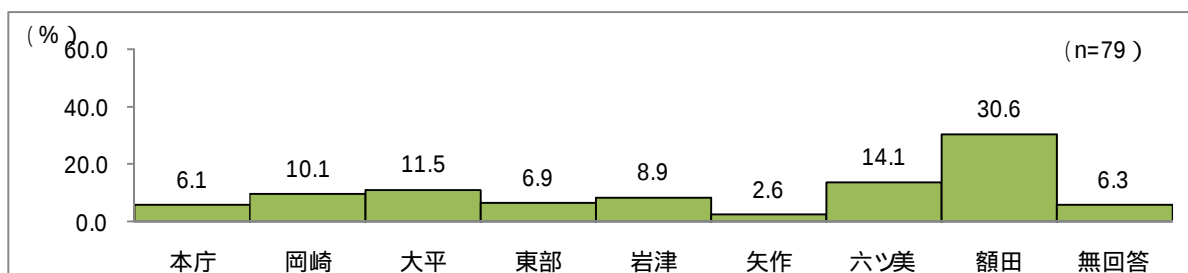
バス



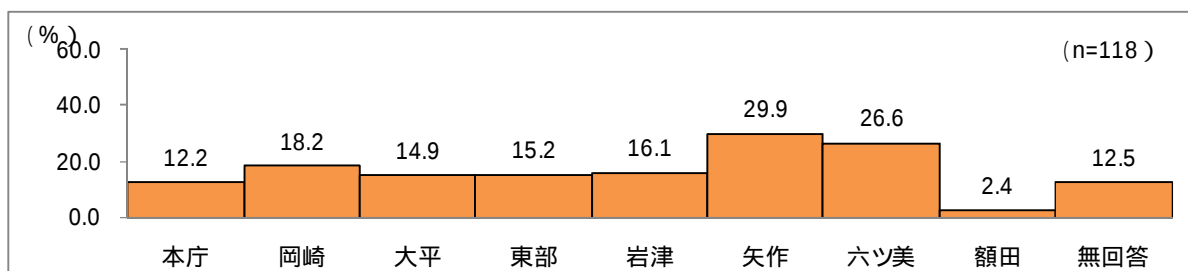
自動車・運転



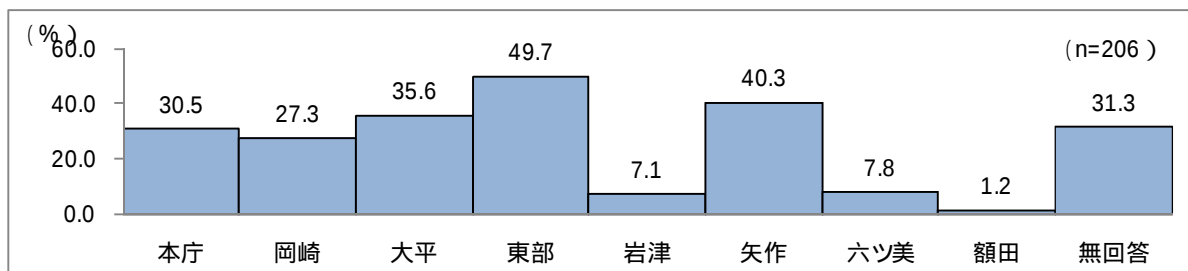
自動車・送迎



自転車



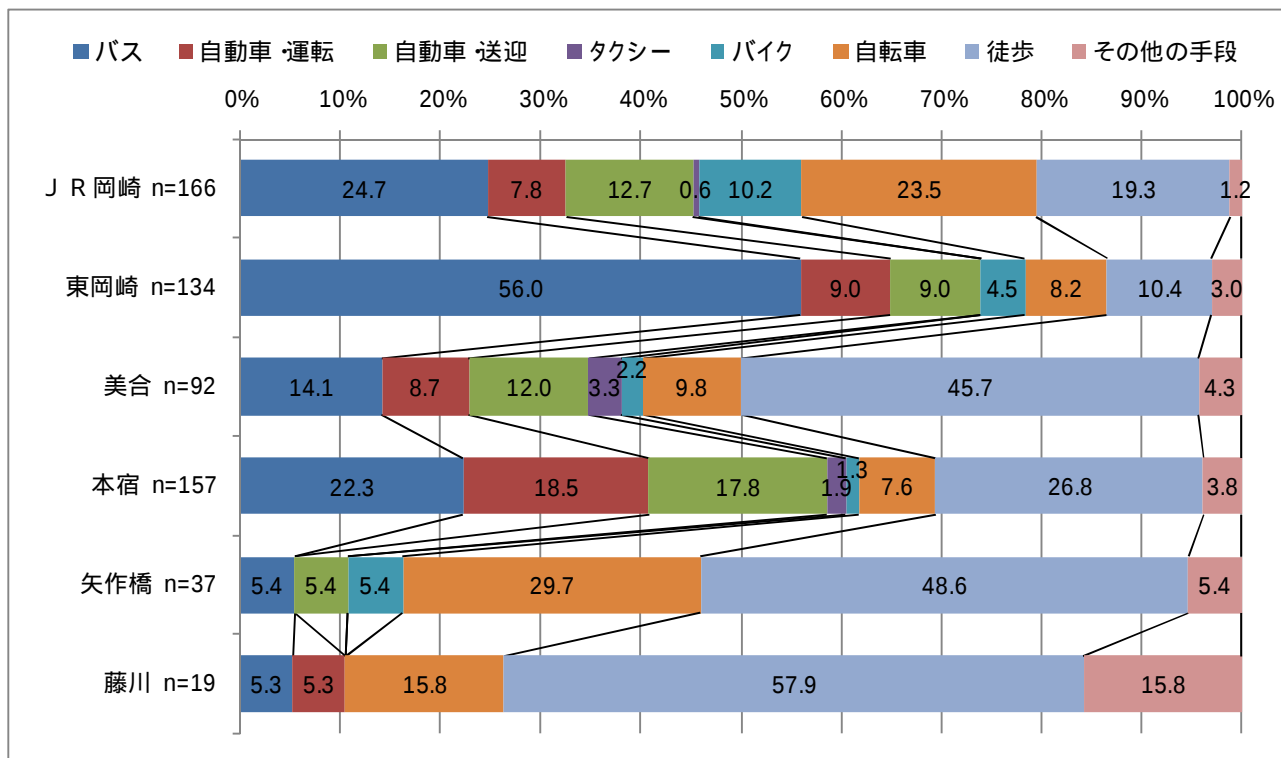
徒歩



【主な鉄道駅までの利用交通手段構成】

J R 岡崎、東岡崎は駅の勢力圏が広いことからバス利用割合が高いが、矢作橋や藤川は駅の勢力圏が狭く、徒歩、自転車の利用割合が高い。

3年前と比較しバス利用割合が高くなっており（J R 岡崎を除く）、自動車（自分で運転）利用割合が低くなっている。

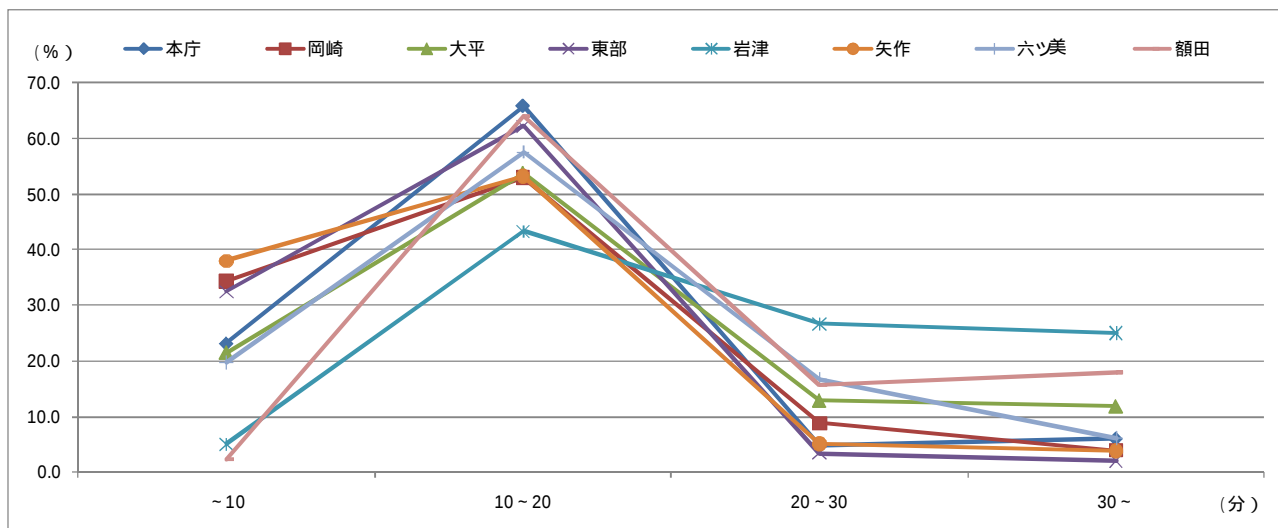
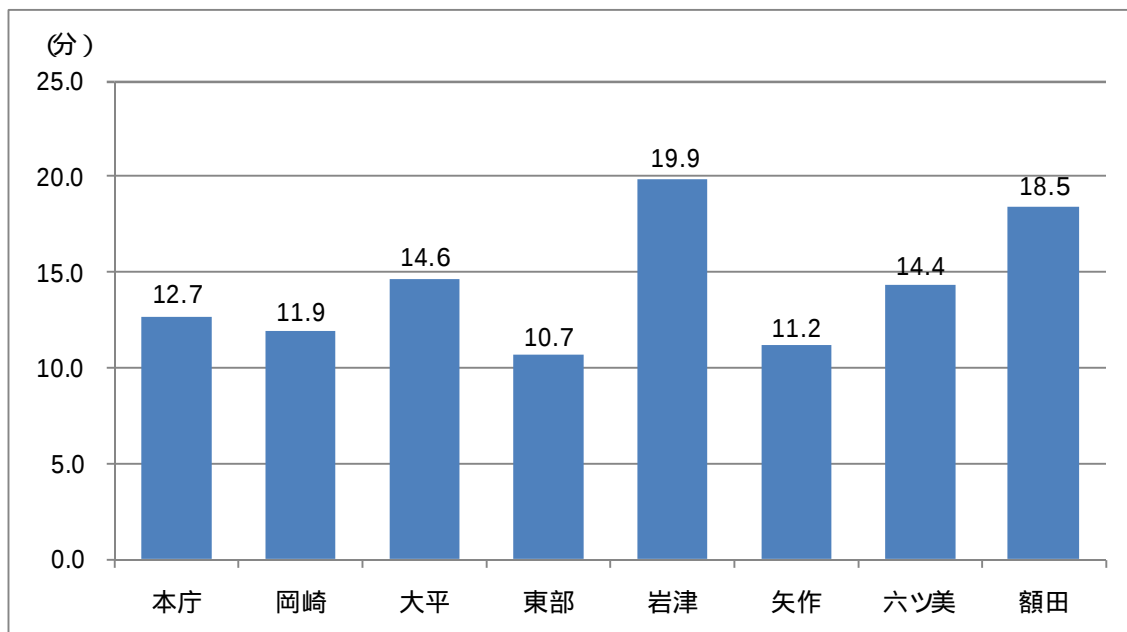


上記の駅は乗降人員が 5,000 人以上

駅名が記入されているサンプルを対象としている。

【鉄道駅までの所要時間】(手段合計)

平均所要時間は岩津地区の20分が最大であり、東部地区や矢作地区は約11分と短い。
 東部地区や矢作地区は駅周辺居住者が多いのに対し、岩津地区の場合は市域の北部から東岡崎などにバスでアクセスする人が多いことで時間がかかっている。
 額田地区は鉄道利用者が少ないが、本宿などの駅にアクセスすることから岩津地区に次いで時間がかかっている。

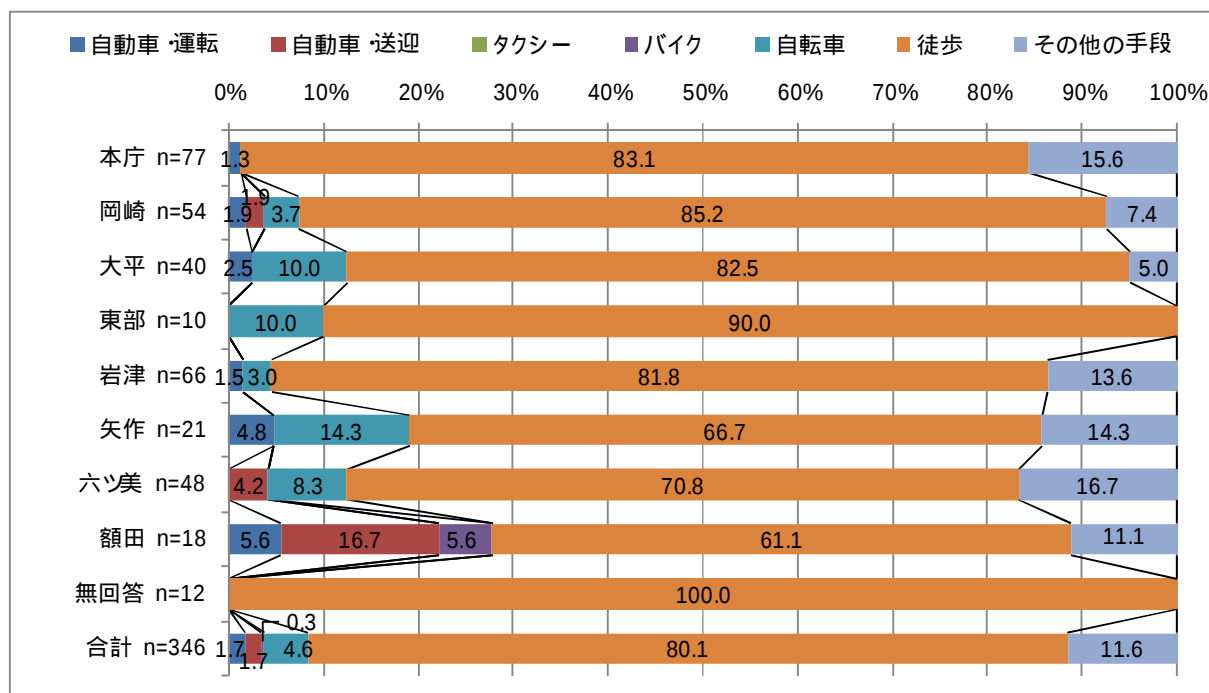


(分)

	~ 10	10~ 20	20~ 30	30~
本庁	23.2	65.9	4.9	6.1
岡崎	34.3	52.9	8.8	3.9
大平	21.5	53.8	12.9	11.8
東部	32.4	62.2	3.4	2.0
岩津	5.0	43.3	26.7	25.0
矢作	38.0	53.2	5.1	3.8
六ツ美	19.7	57.6	16.7	6.1
額田	2.2	64.0	15.7	18.0

【バス利用 乗車側交通手段】

徒歩利用が約 8割であるが、矢作地区、大平地区、東部地区では自転車の利用が高く、額田地区では自動車(送迎)でバス停に向かう人が約 17%程度存在する。

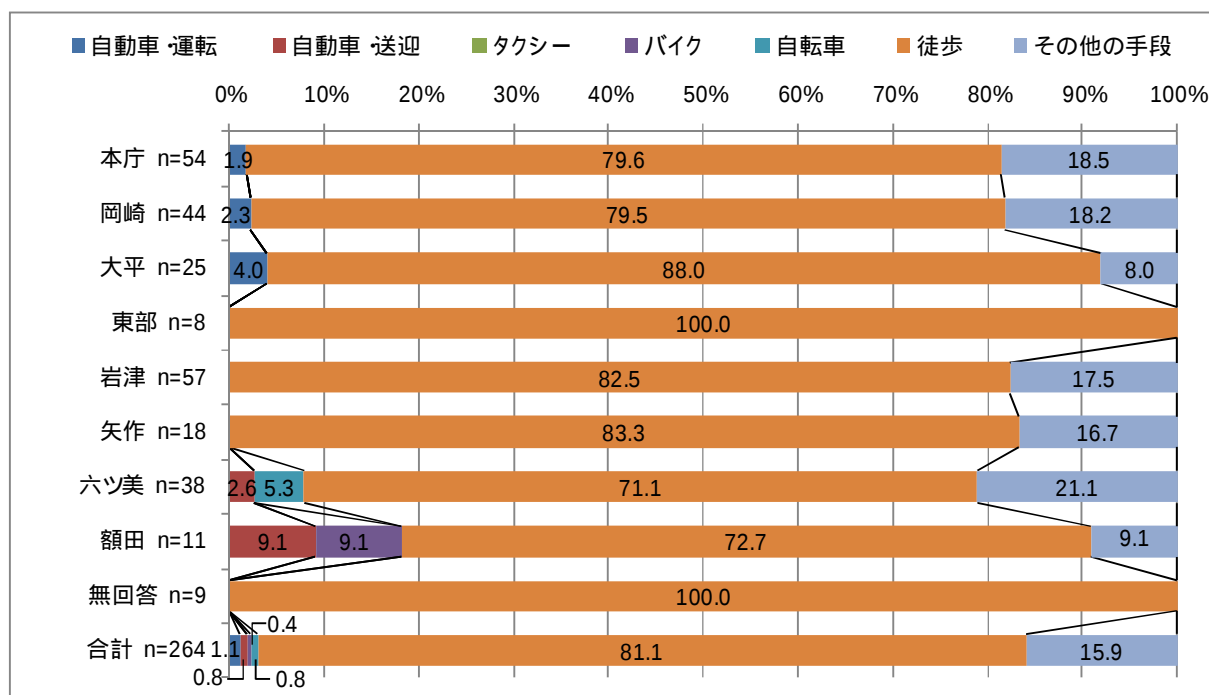


バス停までの利用手段不明を除く

また、バスの端末手段として「バス」を回答した人のデータを除く

【バス利用 降車側交通手段】

約 8割の人は徒歩利用であるが、額田地区では自動車(送迎)、バイクの利用割合も高い。



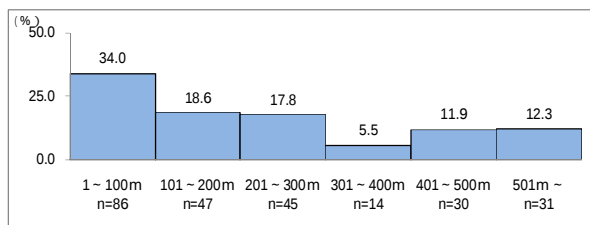
バス停からの利用手段不明を除く

また、バスの端末手段として「バス」を回答した人のデータを除く

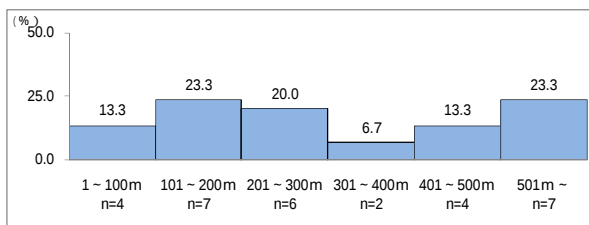
問2 バス（まちバスや乗合タクシーを含む）の利用についてお答えください。
 自宅から最寄りのバス停の名称と距離をお答えください。

【最寄りバス停までの距離】

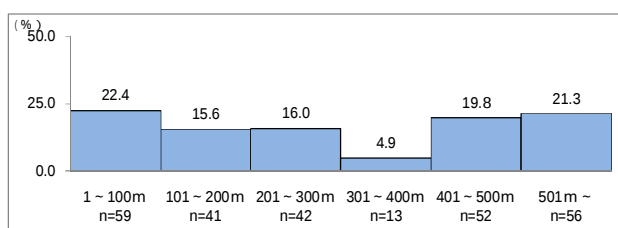
本庁（常盤地区除く）



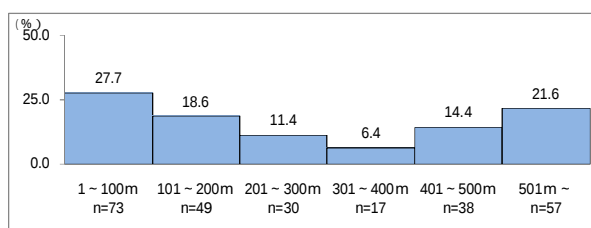
本庁（常盤地区）



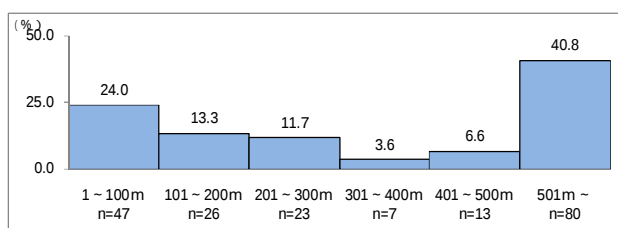
岡崎



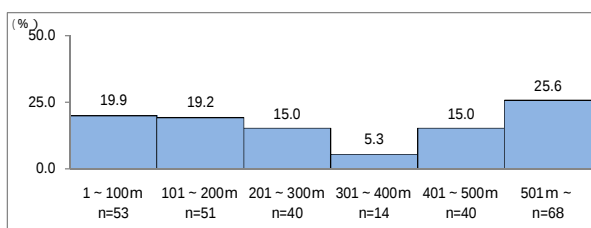
大平



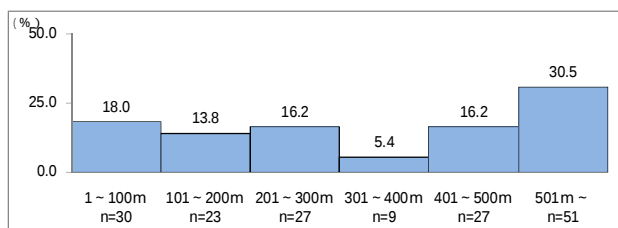
東部



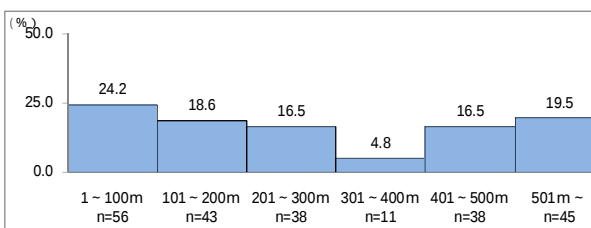
岩津



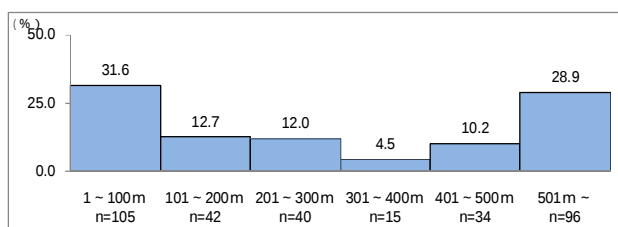
矢作



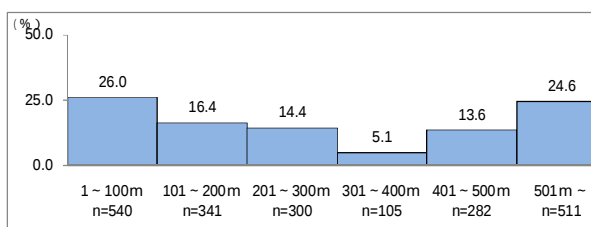
六ツ美



額田



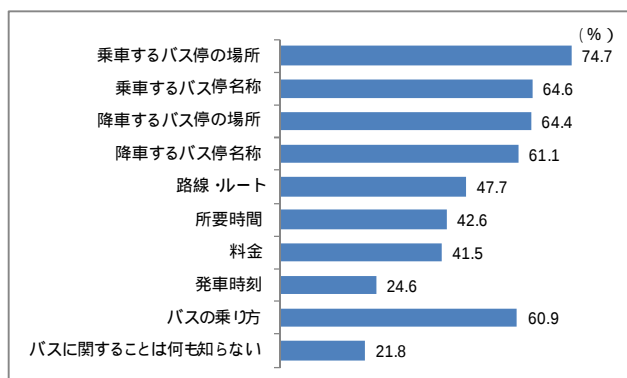
合計



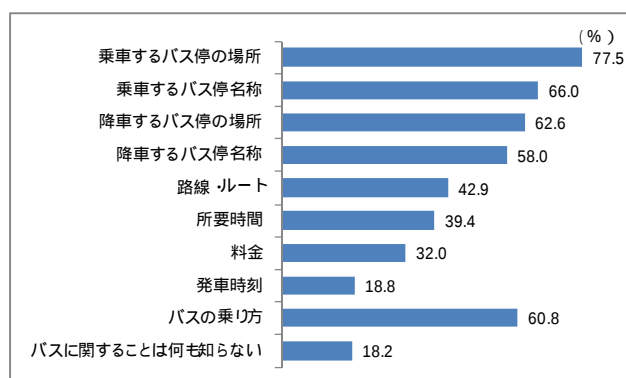
自宅からよく行く目的地（通勤・通学地、スーパー、病院など）まで利用できるバスについて、知っていることを全て教えてください。

バス停名や位置、バスの乗り方はわかるが、路線・ルート・所要時間・発時刻などはわからない人の割合が高い。

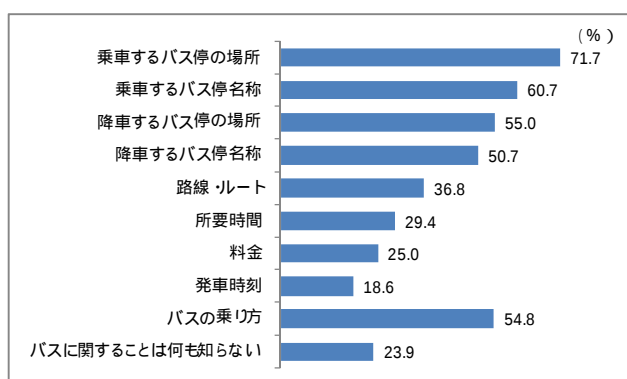
本庁 n=509



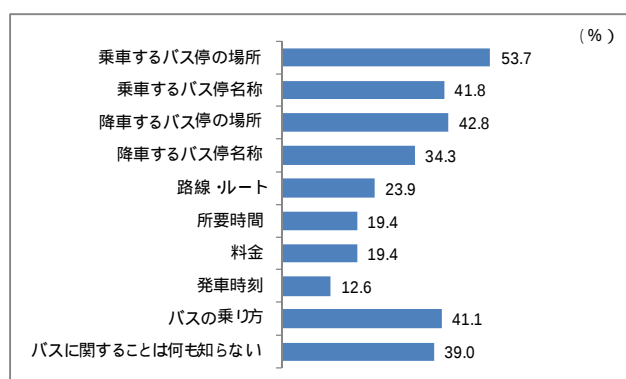
岡崎 n=462



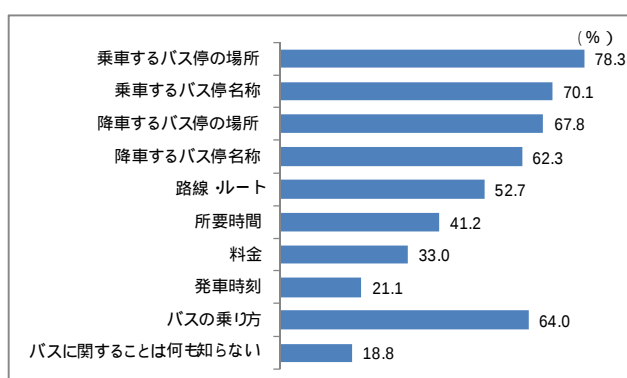
大平 n=456



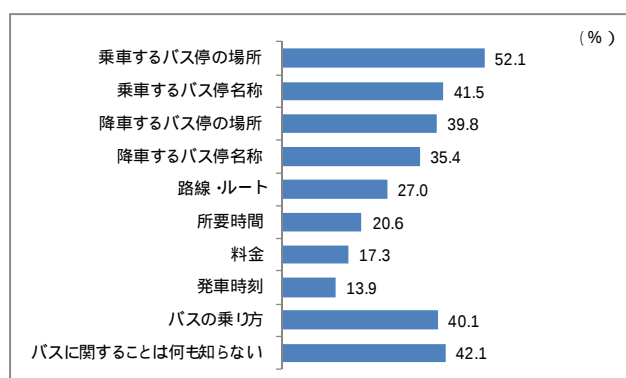
東部 n=397



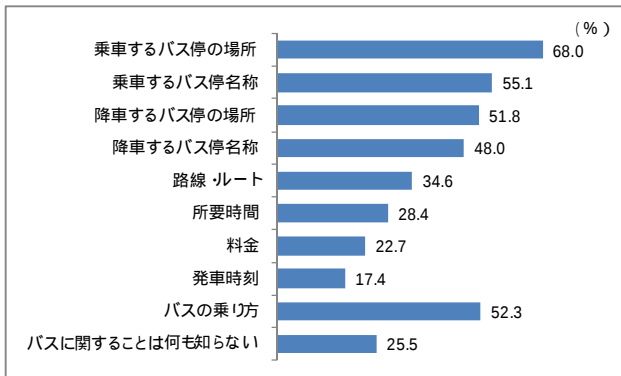
岩津 n=469



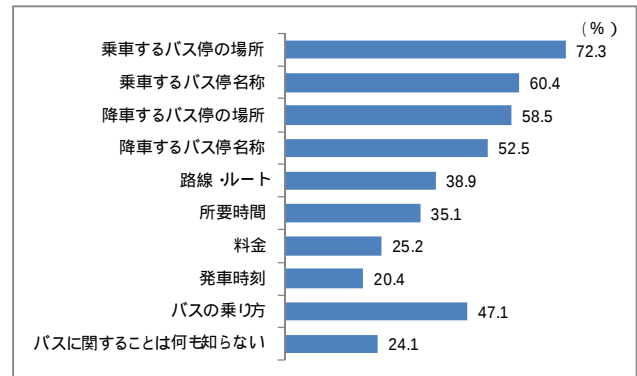
矢作 n=359



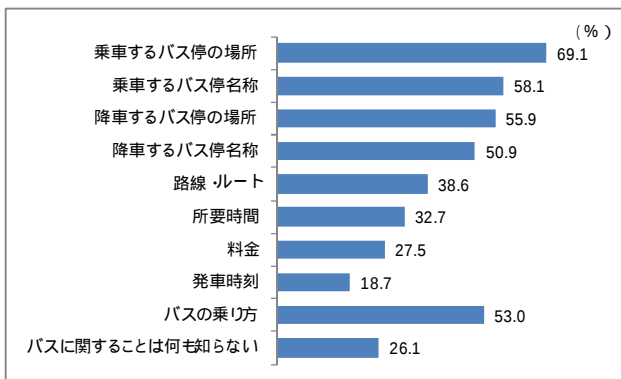
六ツ美 n=419



額田 n=465



合計 n=3708



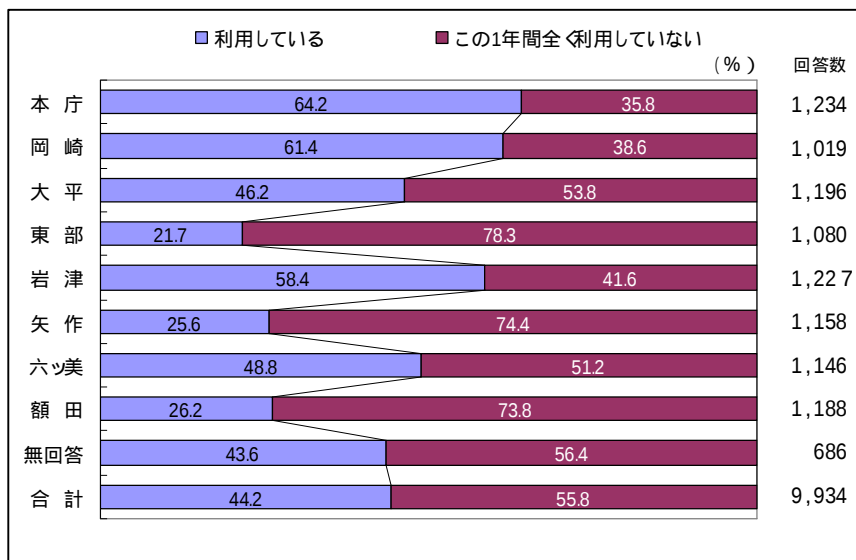
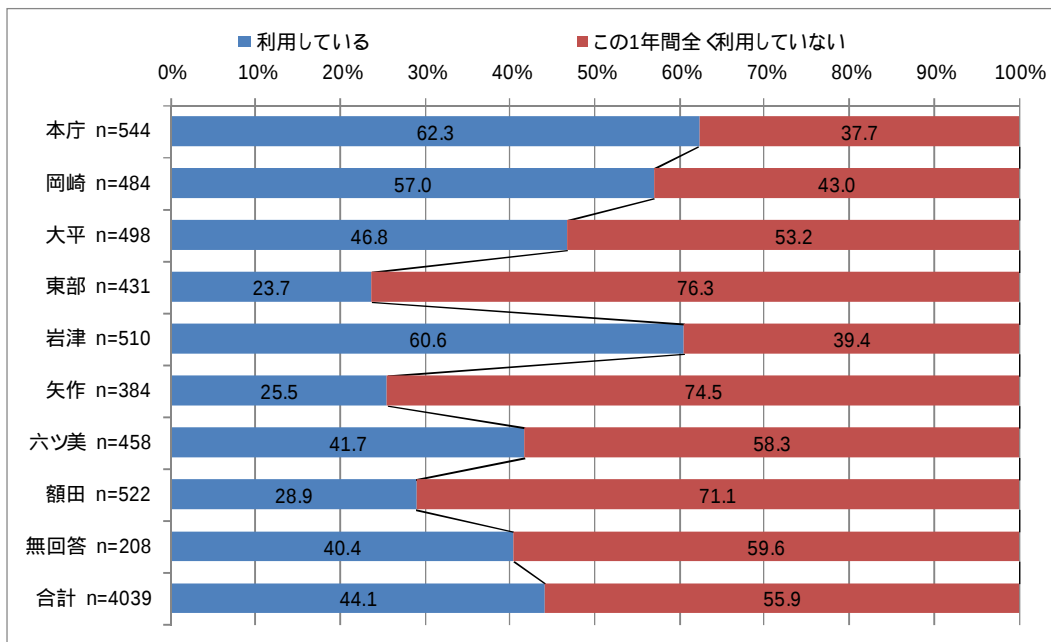
自宅近くのバスを週、月または年に何回ぐらい利用していますか。
往復で利用する場合は2回としてください。

【1年間のバス利用】

市全体では6割弱の方が1年以上バスを利用していない

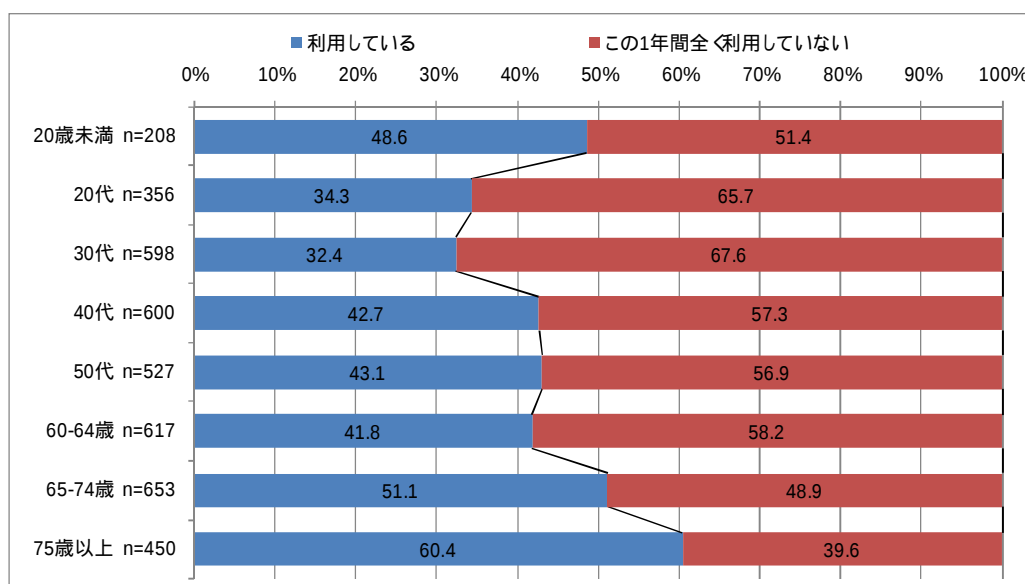
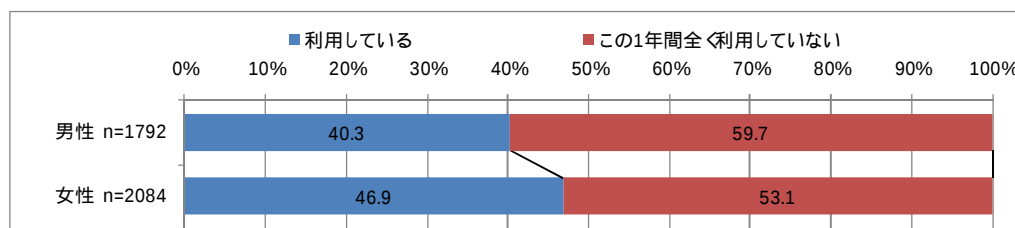
東部、矢作、額田の3地区では7~8割の人が1年以上バスを利用していない

3年前と比較し、この1年間でバスを利用している人は岡崎、東部、岩津、額田で若干増加している



日常の交通実態とバス利用に関する市民アンケート (H19. 7)

この1年間でバスを利用している人は、男女別では女性、年齢別では20歳未満、65歳以上で多い。

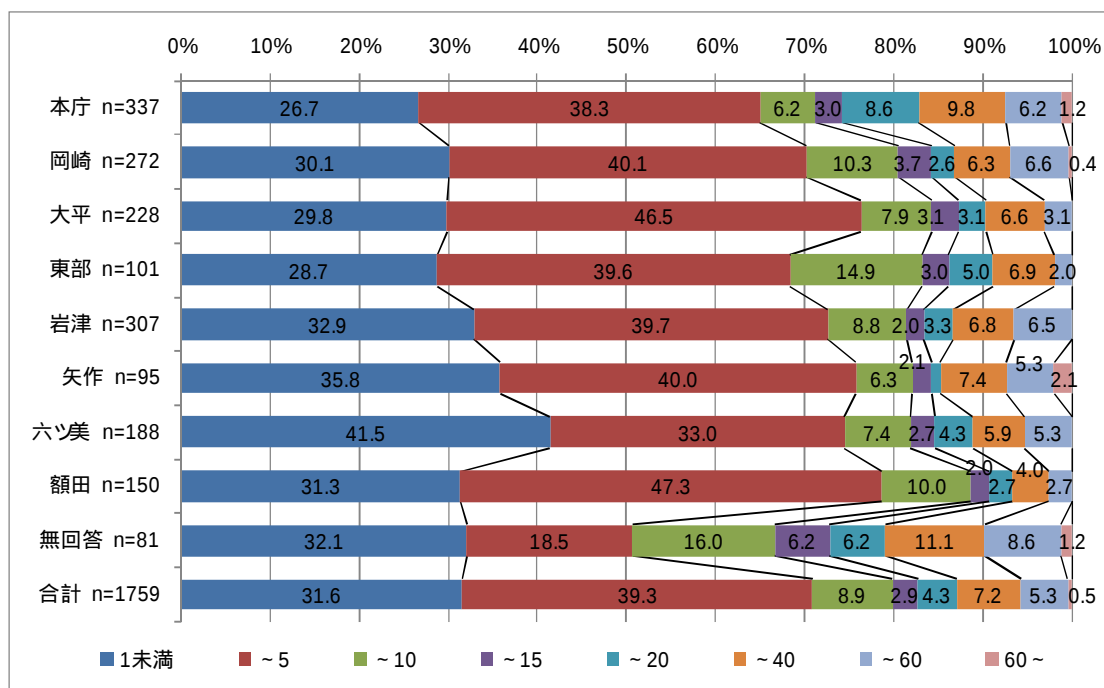


【月に何回バスを利用しているか】

月に5回未満の人が7割(70.9%)を占めている。

1日2回(往復)利用、週10回、月40回以上的人是全体の約6%である。

(単位：回/月)



注) 単位年→1/12で月に換算、単位週→×4で月に換算

問3 全国的にバス路線の廃止が進むなか、岡崎市では市内のバスネットワークを維持していくための手法として、廃止対象路線を見直すことにより、高齢者など一定の需要が見込まれる路線については、市が運行に必要な経費を補てんし、交通事業者と協議して地域の需要に見合ったものに改善を進めています。

路線バスの維持に関する対応について、～の項目ごとにあなたの考えに該当するものを1つ選んでください。

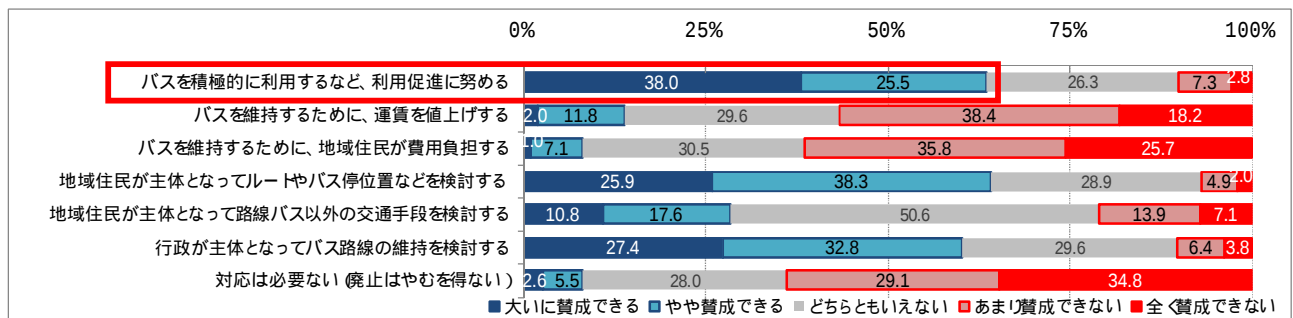
賛成できるとする意見が過半を超える項目は、「バスを積極的に利用するなど、利用促進に努める」、「地域住民が主体となってルートやバス停位置などを検討する」、「行政が主体となってバス路線の維持を検討する」となっている。

賛成できないとする意見が過半を超える項目は、「バスを維持するために、運賃を値上げる」、「バスを維持するために、地域住民が費用負担する」、「対応は必要ない（廃止はやむを得ない）」となっている。

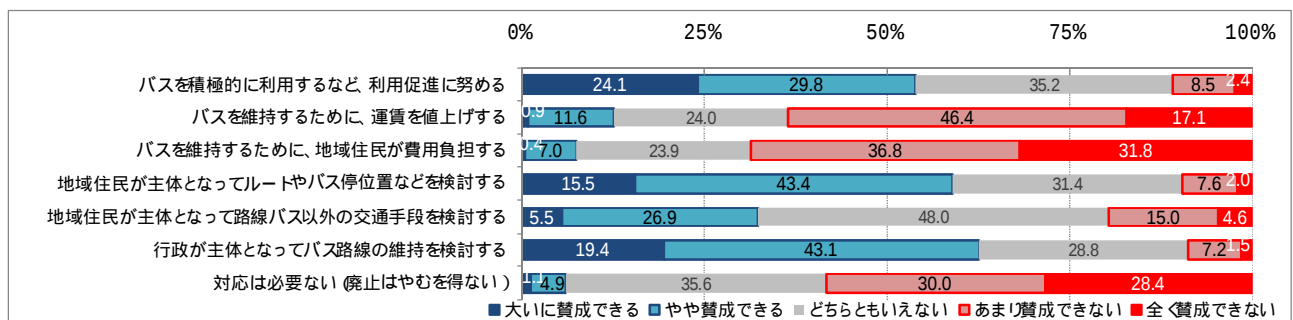
「地域住民が主体となって路線バス以外の交通手段を検討する」については、どちらともいえないとする意見が多くなっている。

路線バスを維持するための対応は、運賃の値上げや地域住民の費用負担ではなく、バスの利用促進や地域住民が主体となったルートなどの検討に賛成できるとした意見が多い。地区により大きな差はないが、本庁地区では「バスを積極的に利用するなど、利用促進に努める」に賛成できるとする割合が高くなっている。

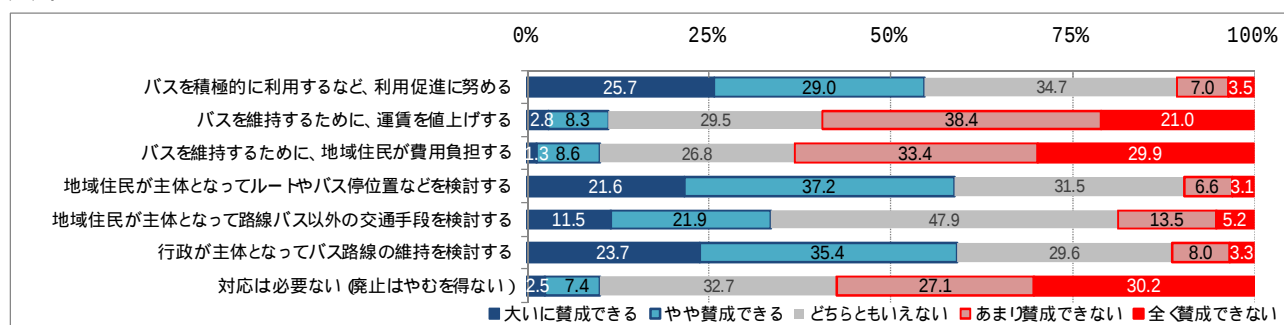
本庁



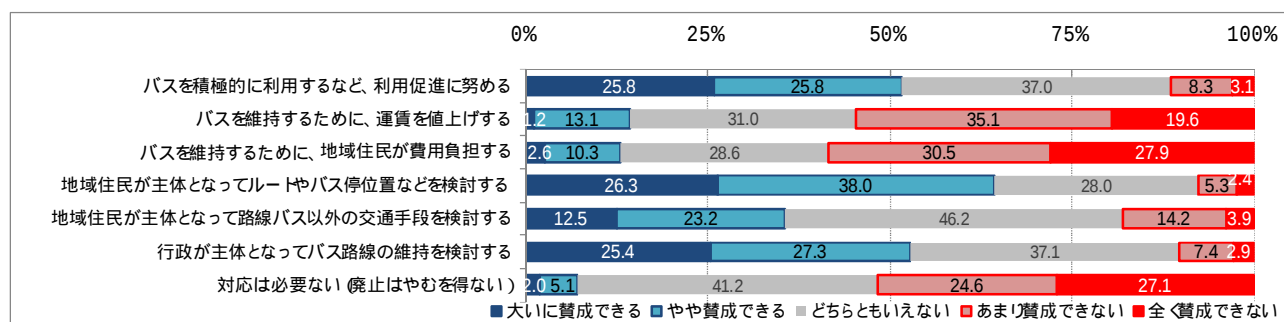
岡崎



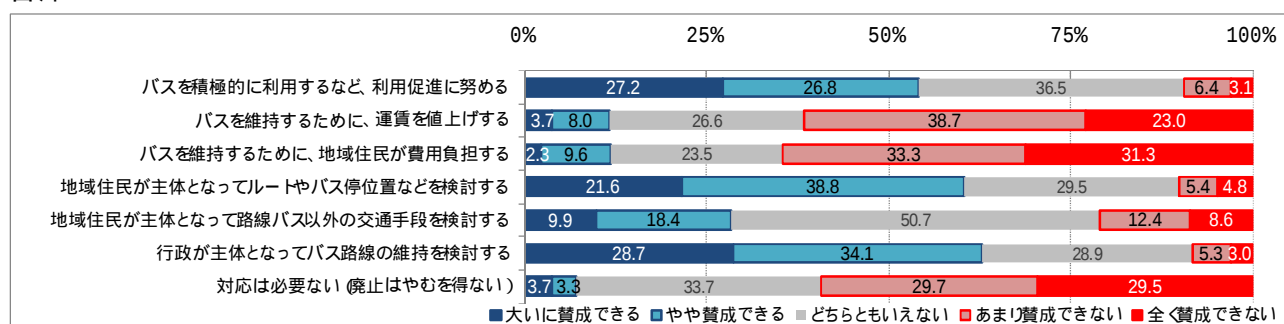
大平



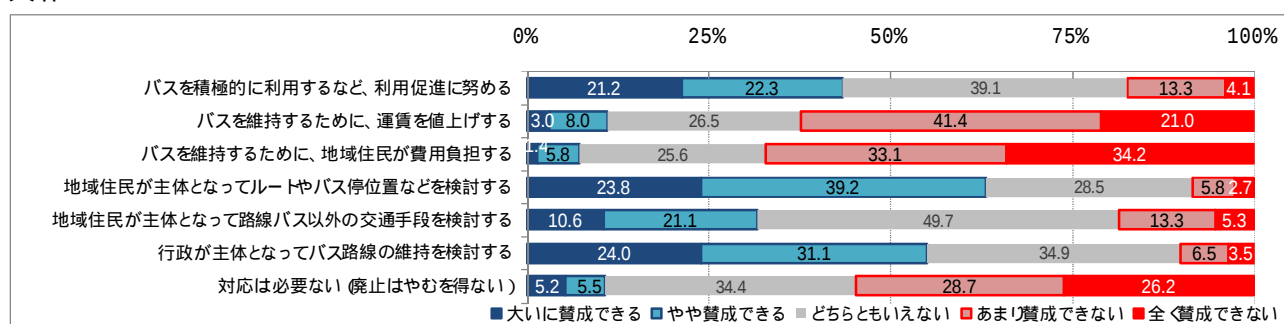
東部



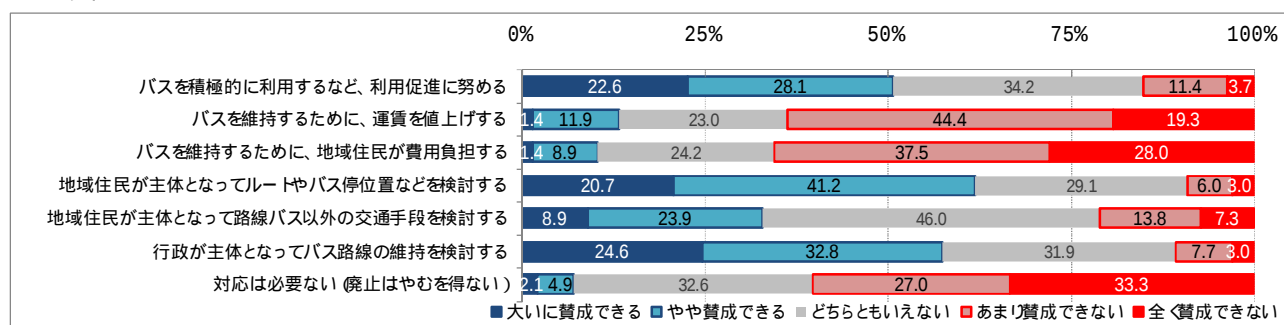
岩津



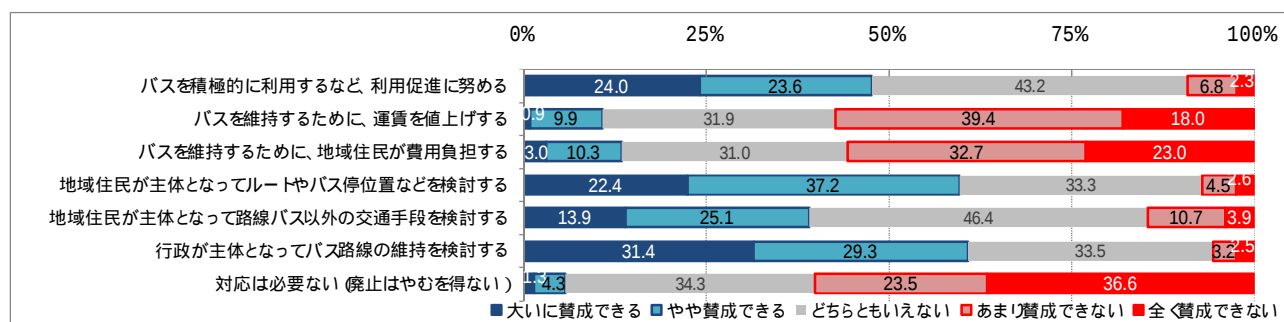
矢作



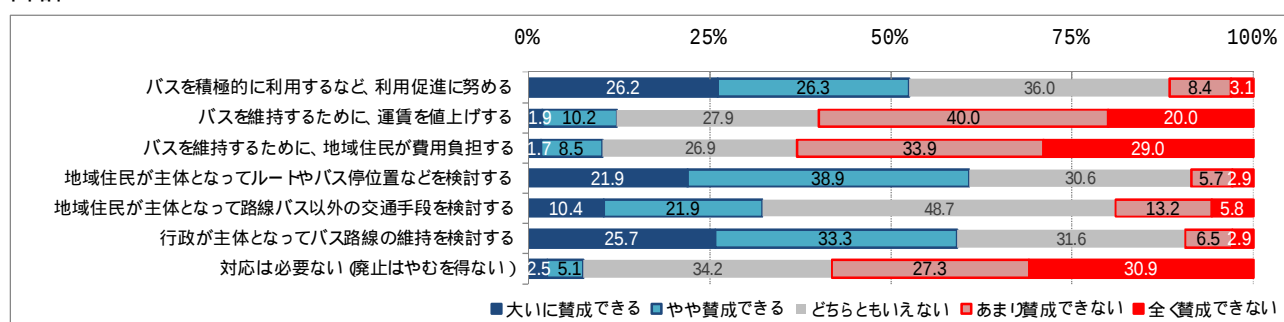
六ツ美



額田



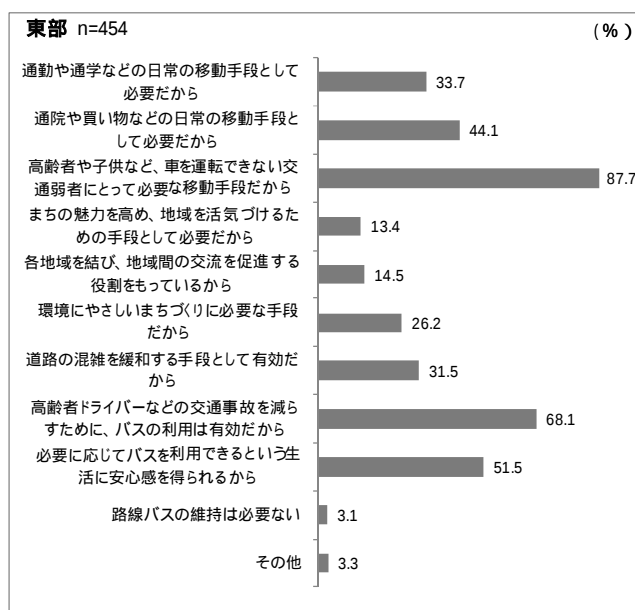
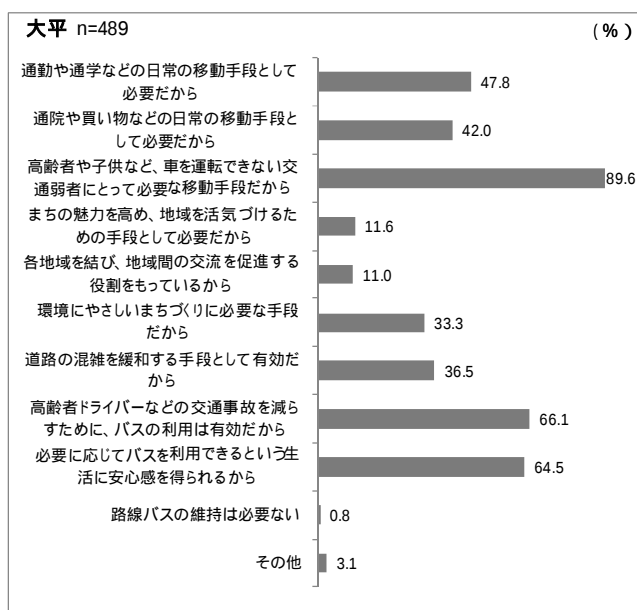
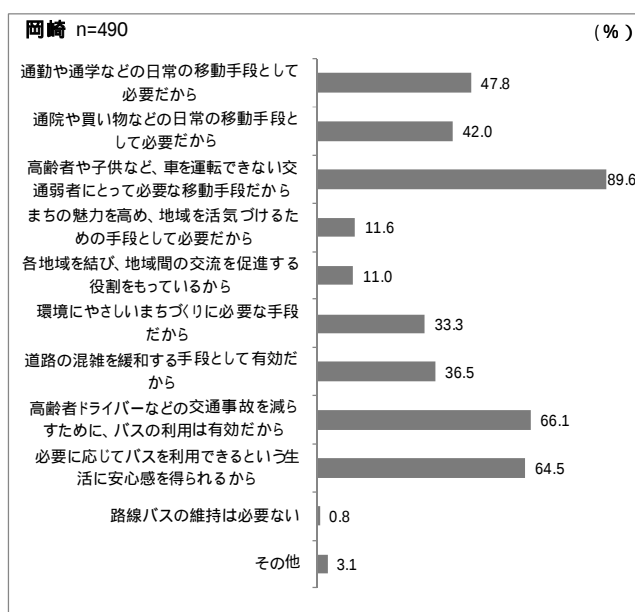
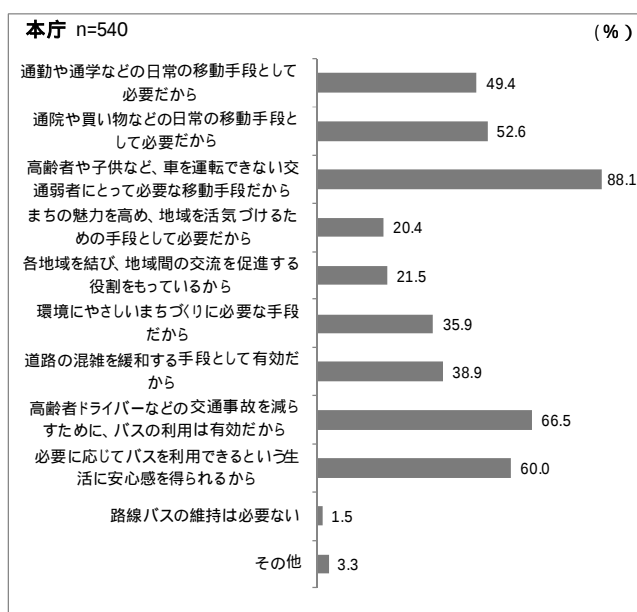
合計

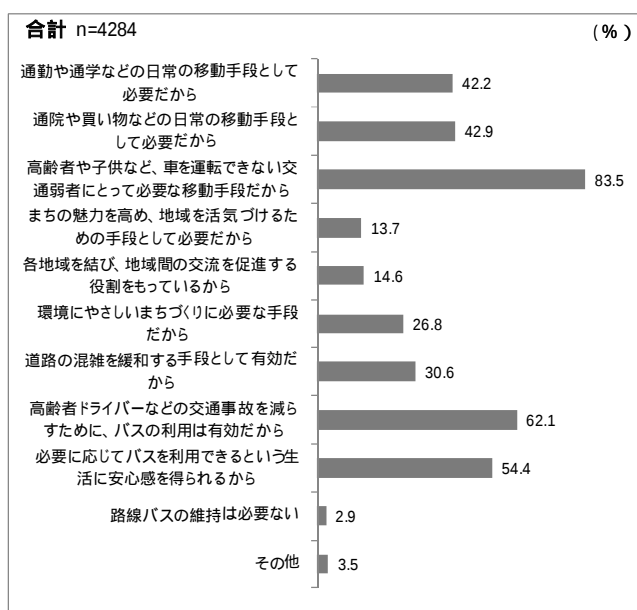
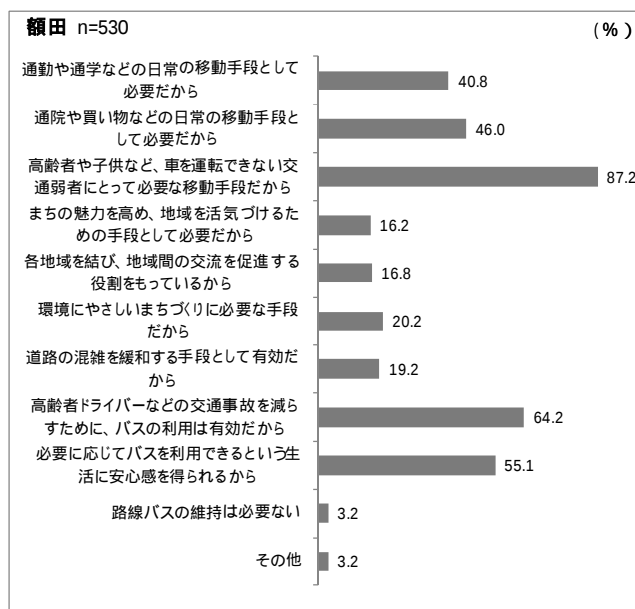
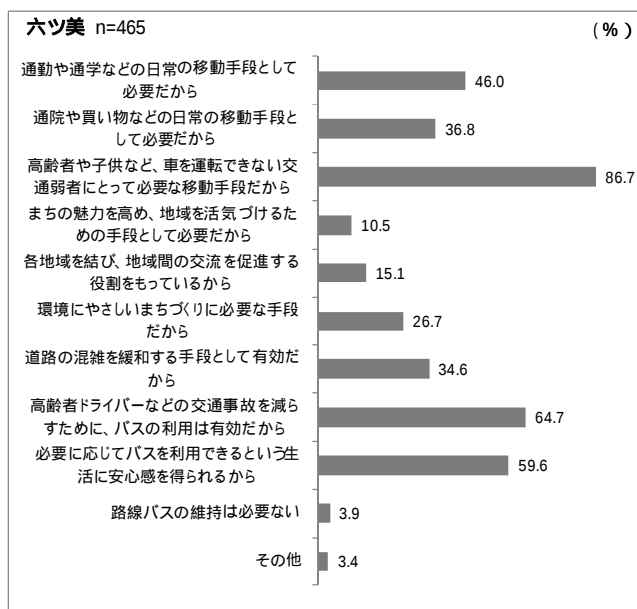
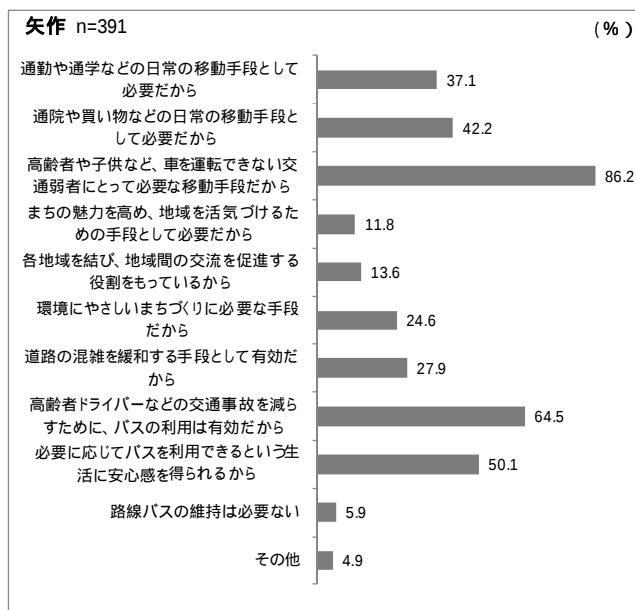
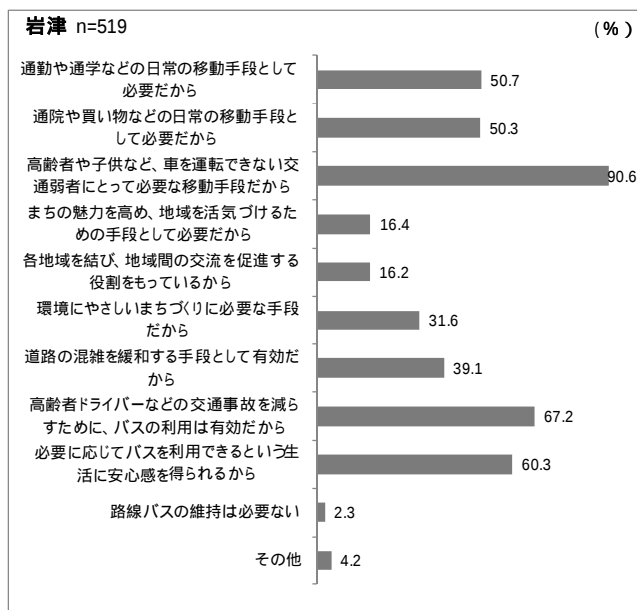


路線バスの維持が必要な理由などについて、あなたの考えをお答えください。
(該当するもの全て)

「高齢者や子供など、車を運転できない交通弱者にとって必要な移動手段だから」が最も多く、次いで「高齢者ドライバーなどの交通事故を減らすために、バスの利用は有効だから」となっており、高齢社会への対応として路線バスの維持が必要とする意見が多くなっている。

一方、地域の活性化や交流促進といった「まちの魅力を高め、地域を活気づけるための手段として必要だから」、「各地域を結び、地域間の交流を促進する役割をもっているから」とする意見は少なくなっている。





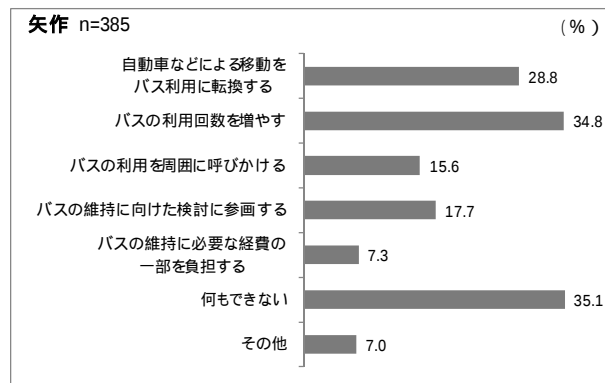
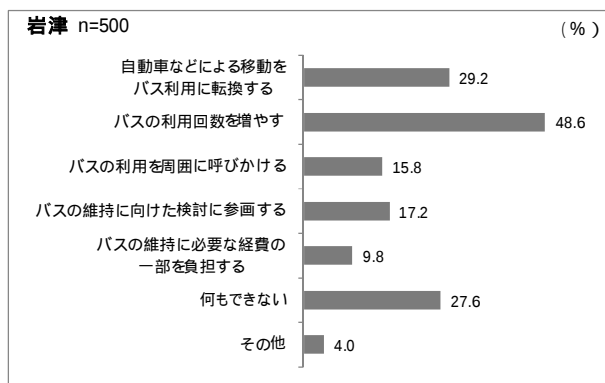
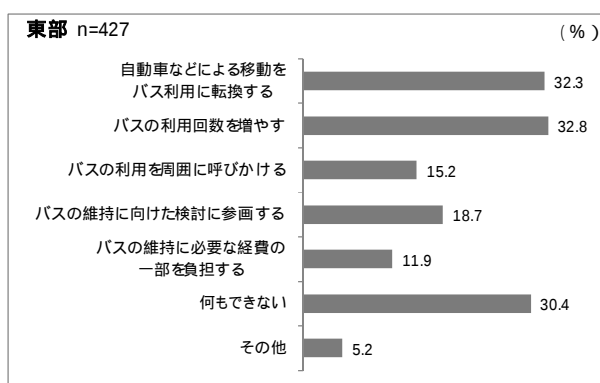
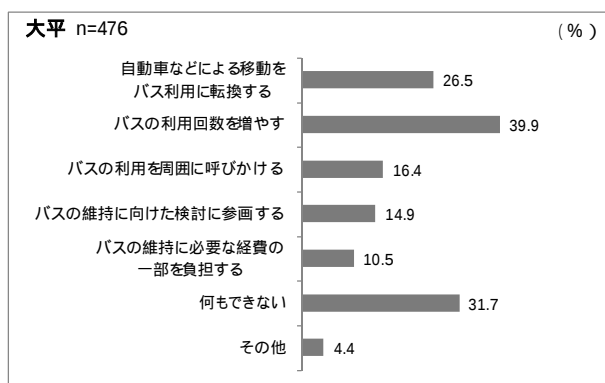
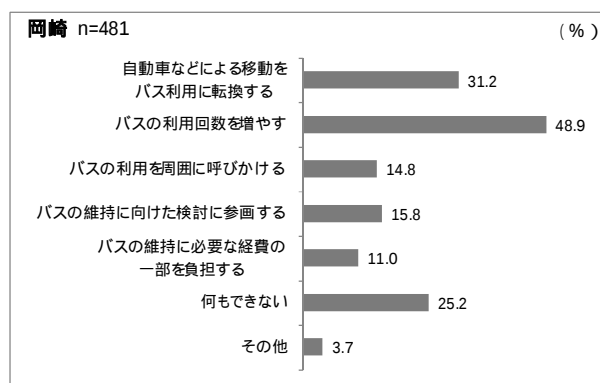
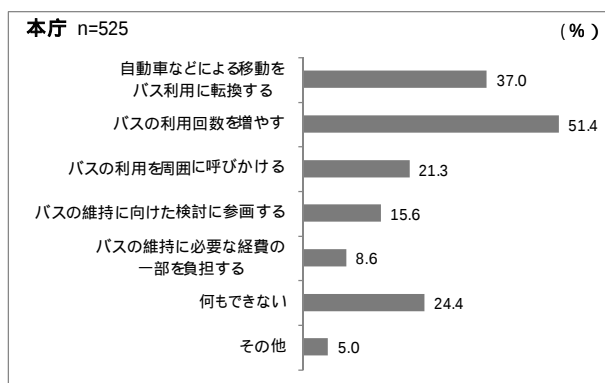
路線バスを維持するために、どのような支援ができますか。(該当するもの全て)

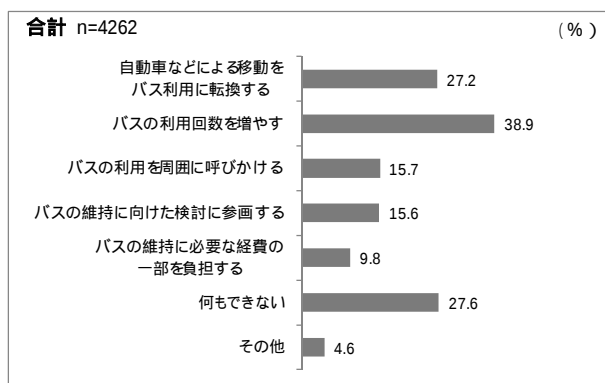
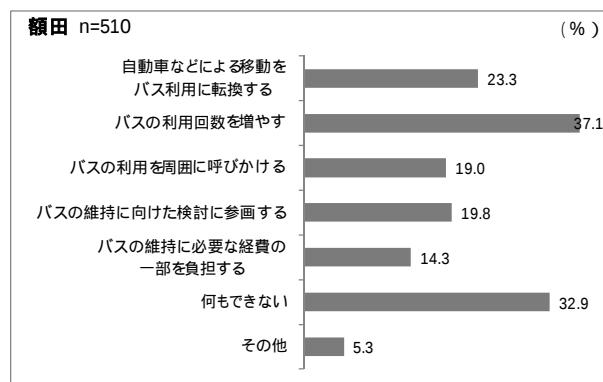
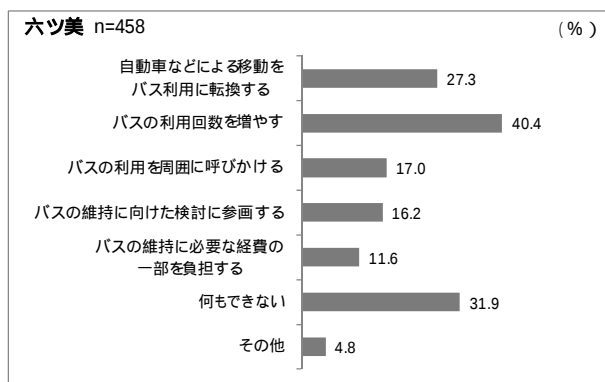
「バスの利用回数を増やす」が最も多く、次いで「自動車などによる移動をバス利用に転換する」となっており、自身の交通行動の変更によって支援とする意見が多くなっているが、「何もできない」とする意見も多くなっている。

バス路線の充実している本庁地区や岡崎地区では「バスの利用回数を増やす」が比較的多くなっている。

額田地区では「自動車などによる移動をバス利用に転換する」が比較的少なくなっており、地域特性としてバス利用への転換が難しい側面もあることがうかがえる。

「バスの維持に必要な経費の一部を負担する」は最も少なくなっている。

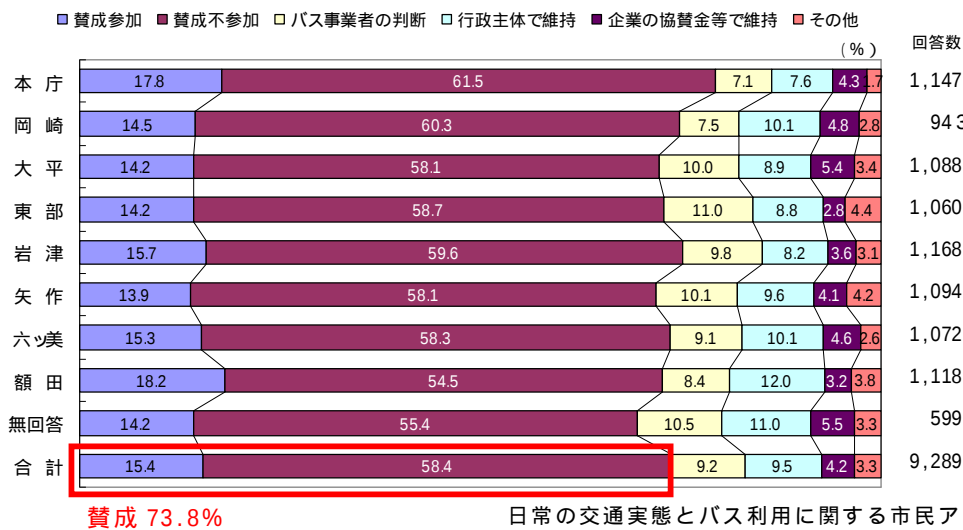
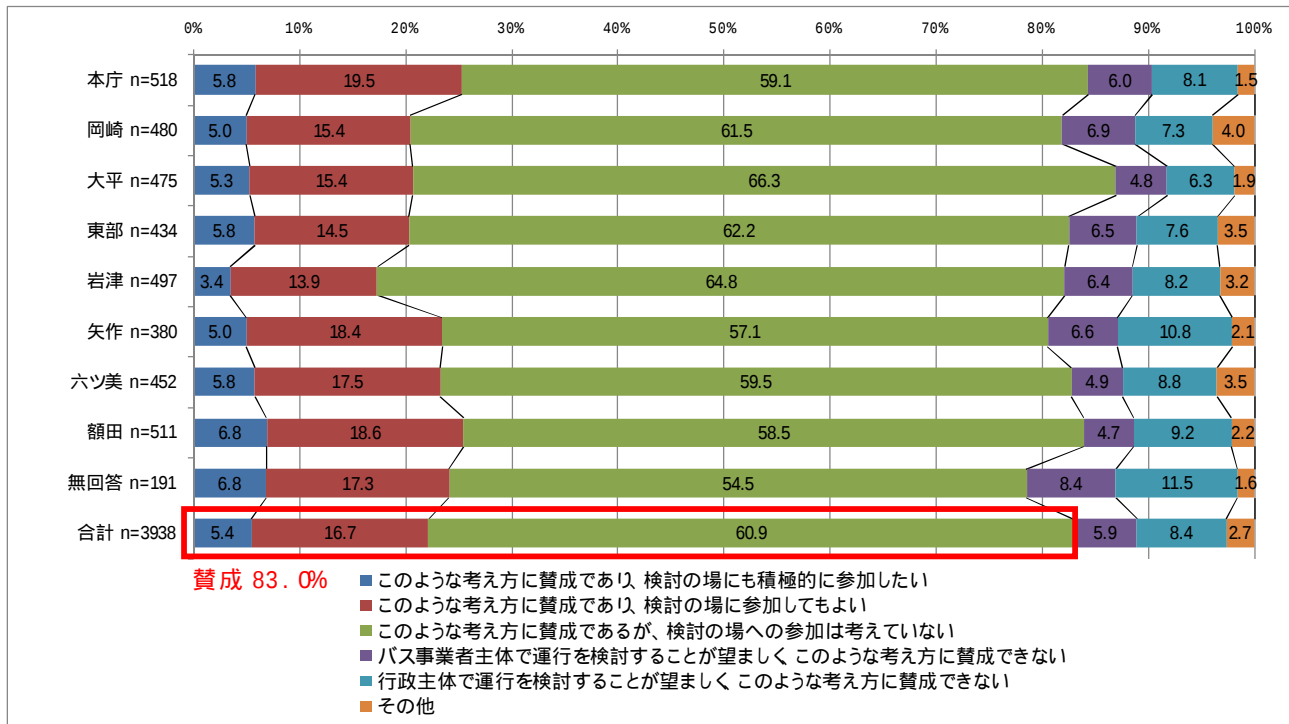




地域の公共交通を持続可能なものにしていくためには、地域住民が主体となり、運行計画の立案から利用促進、さらには運行するための経費についても検討し、地域と行政がそれぞれの役割と責任を持って創り、守り、育てていくことが期待されています。あなたの考えに該当するものを1つ選んでください。

地域住民が主体となって検討することについて賛成とする意見は 8割を超えるが、住民自身が検討の場に参加したい、してもよいとする意見は 2割程度にとどまっている。バス事業者主体で運行を検討することが望ましいとする意見は、約 6%と最も少なくなっている。

3年前と比較し、地域住民が主体となって検討することについて賛成とする意見は 9.2ポイント増加している。また、検討の場への参加意向を持つ人は 6.7ポイント増加している。



日常の交通実態とバス利用に関する市民アンケート (H19. 7)

問4 岡崎市では、便利で使いやすく、持続可能な公共交通ネットワークの構築を進めるため、平成20年度から既存の鉄道やバス路線と連携し、交通結節点や地域拠点間を結ぶ基幹バス、中山間地域における乗合タクシーの整備などに取り組んでいます。
岡崎市の公共交通事業のこうした取り組みについて、～の項目ごとに該当するものを1つ選んでください。

< 岡崎市の公共交通事業の取り組み >

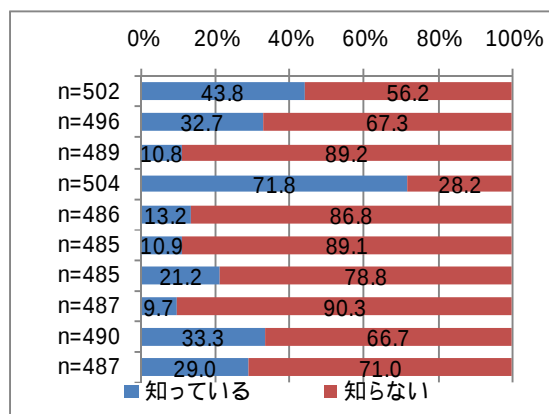
おかざきエクスプレスの整備 (岡崎駅、東岡崎駅、中心市街地、主要な公共施設などを直接結ぶ拠点快速バスの運行)
基幹バスネットワーク(市民病院線)の整備 (矢作地区、額田支所、大門駅と市民病院を結ぶ基幹バス3レートの運行)
中山間地域における乗合タクシーの整備 (下山地区、形埜地区などで地域住民が主体となって計画した生活交通の運行)
コミュニティバス「まちバス」の整備 (中心市街地の商店街やイベントと連携し、まちなかでの移動の利便性を向上)
廃止対象バス路線(市内補助路線)の改善 (廃止申し出のあった市内15路線の補助運行による路線存続と改善検討)
既存バス路線(ルート)の新設 (北斗台、開元の里、山中学区などで地域住民組織の取り組みにより路線バスの乗り入れが実現)
公共交通利用促進キャンペーンの実施 (秋の市民まつりの2日間を「公共交通に親しむ日」として公共交通利用促進キャンペーンを実施)
マイカーから公共交通への意識改革の実施 (市内事業所などを対象に「エコ通勤トライアル」などのモビリティ・マネジメントを実施)
公共交通マップの作成 (市内バス路線図や主要駅発着のバス運行情報などを掲載した公共交通マップを作成・配布)
路線バスに系統番号を導入 (交通事業者と連携し、市内全バス路線、乗合タクシーに行き先別の系統番号を導入)

市全体では、コミュニティバス「まちバス」の整備の認知率が約5割と最も高く、次いでおかざきエクスプレスの整備、基幹バスネットワーク(市民病院線)の整備の認知率が約3割となっている。

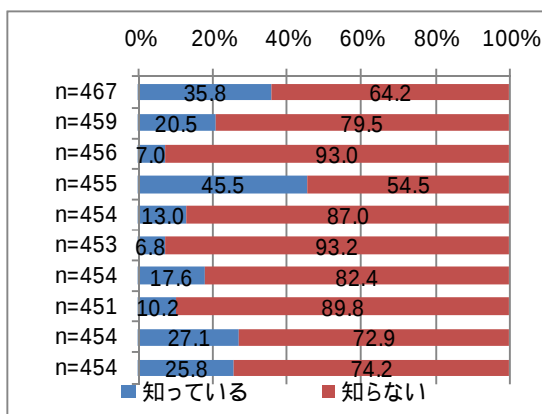
マイカーから公共交通への意識改革の実施の認知率は約1割と最も低い。

地区により、本庁地区ではコミュニティバス「まちバス」の整備、額田地区では基幹バスネットワーク(市民病院線)の整備や中山間地域における乗合タクシーの整備、岩津地区では既存バス路線(ルート)の新設の認知率が高くなっている。

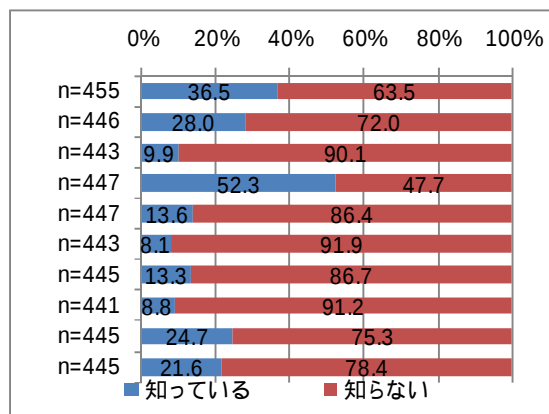
本庁



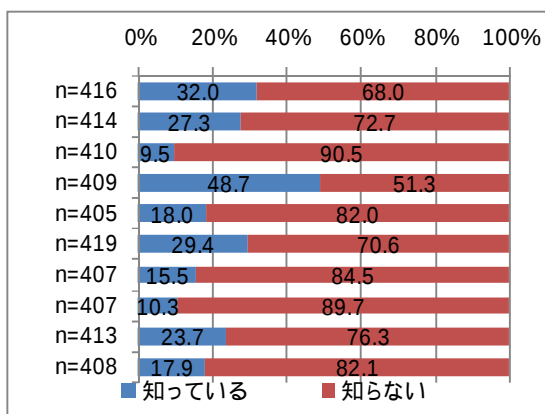
岡崎



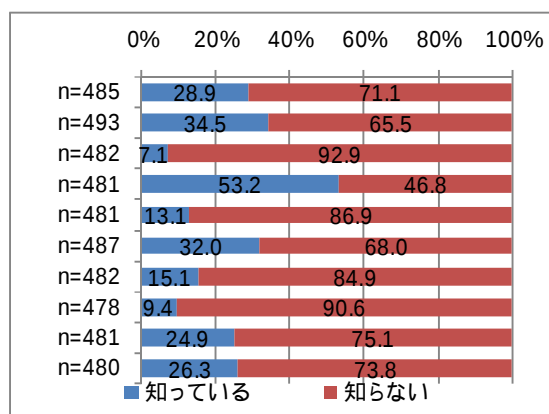
大平



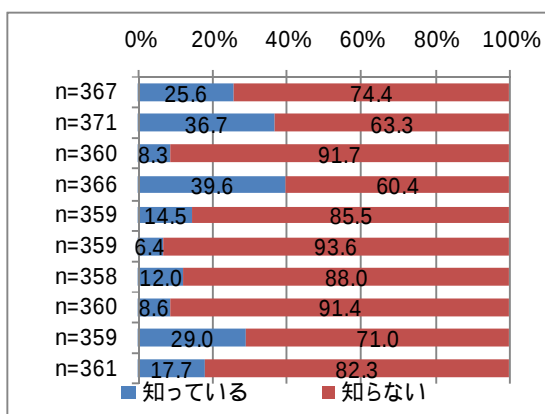
東部



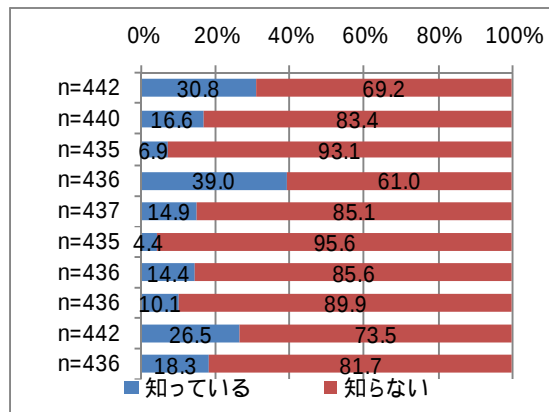
岩津



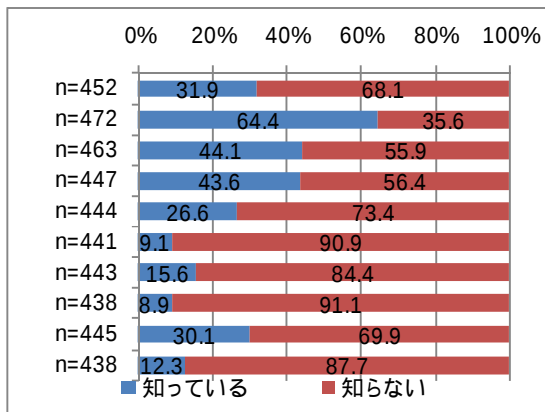
矢作



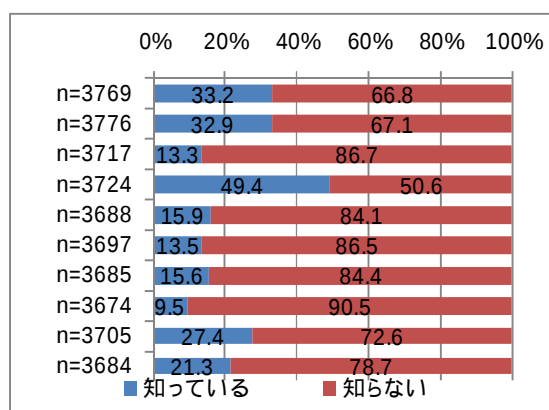
六ツ美



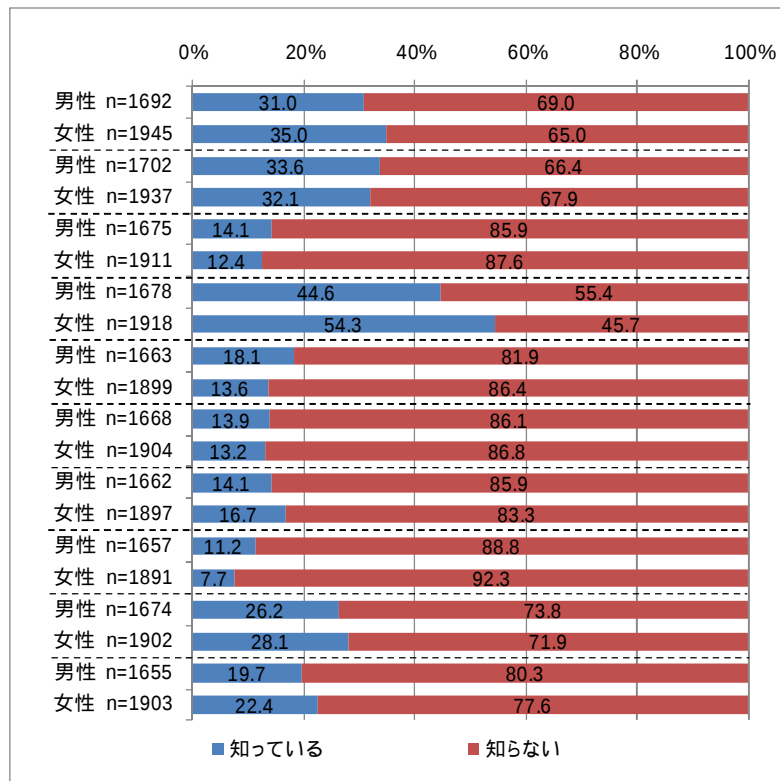
額田



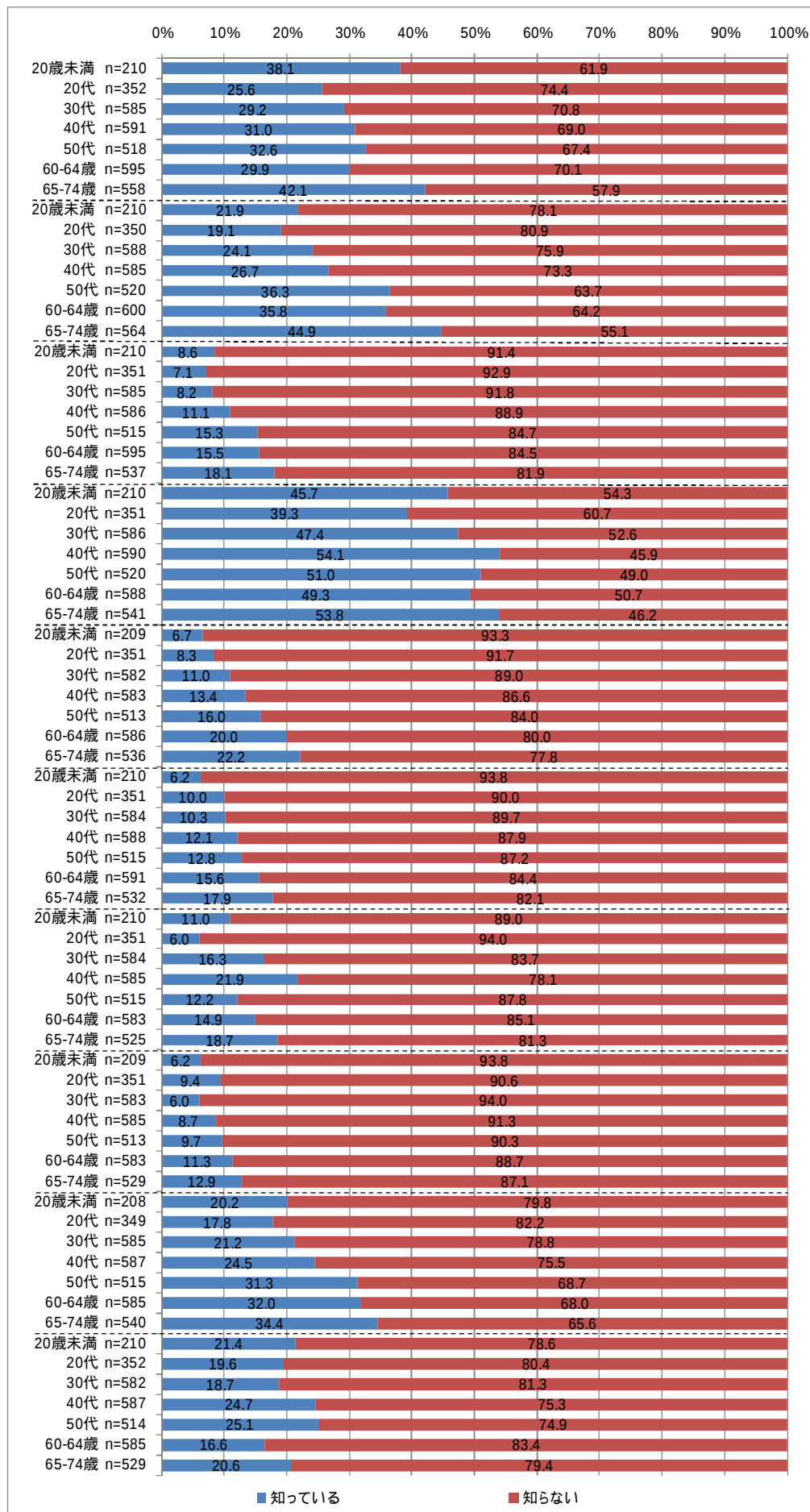
合計



男女別にみると、どの項目も女性の認知率が高い。



年齢階層別にみると、おおむね年齢が高くなるにつれ認知率が高くなっている。

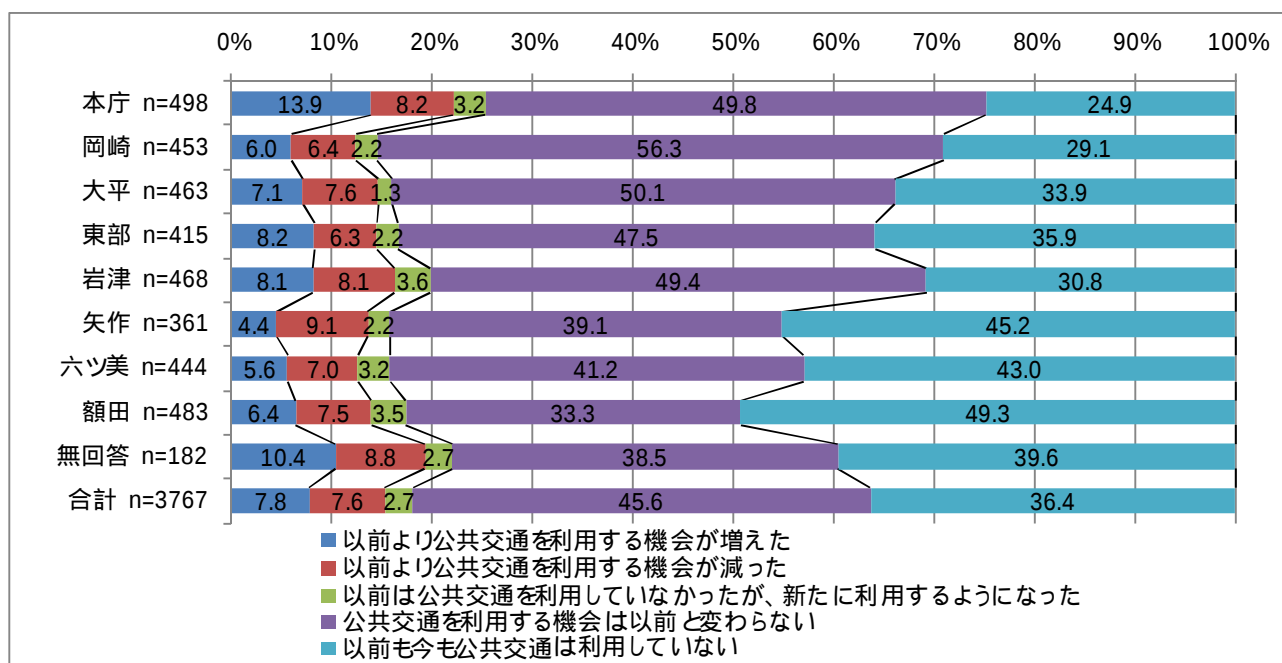


の各種公共交通事業により、公共交通の利用に関して変わったことがありますか。

市全体では「以前より公共交通を利用する機会が増えた」とする人と、「減った」とする人がほぼ同数（約 8%）となっているが、本庁地区では「以前より公共交通を利用する機会が増えた」とする人が、「減った」とする人を上回っている。

市全体で「以前は公共交通を利用していなかったが、新たに利用するようになった」とする人は約 3%存在するが、「公共交通を利用する機会は以前と変わらない」とする人が約半数を占める。

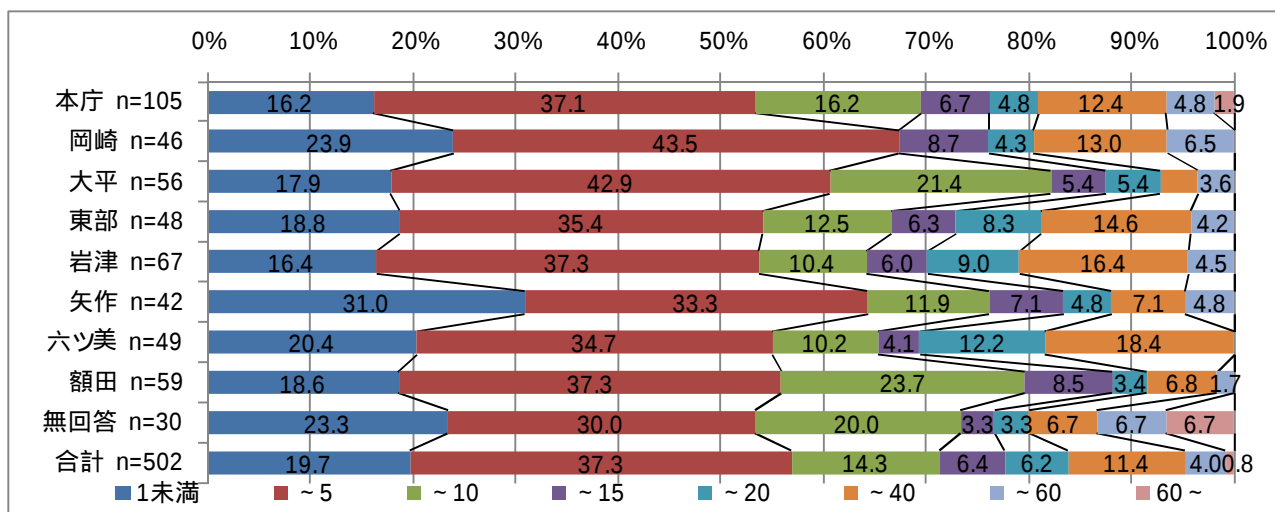
額田地区、矢作地区、六ツ美地区では「以前も今も公共交通は利用していない」とする人が半数近くを占める。



の各種公共交通事業を行う以前のバス利用頻度を教えてください。
往復で利用する場合は2回としてください。

現在の利用頻度（問2）と比較すると、市全体では各種公共交通事業を行う以前と大きな差は見られない。

（単位：回/月）

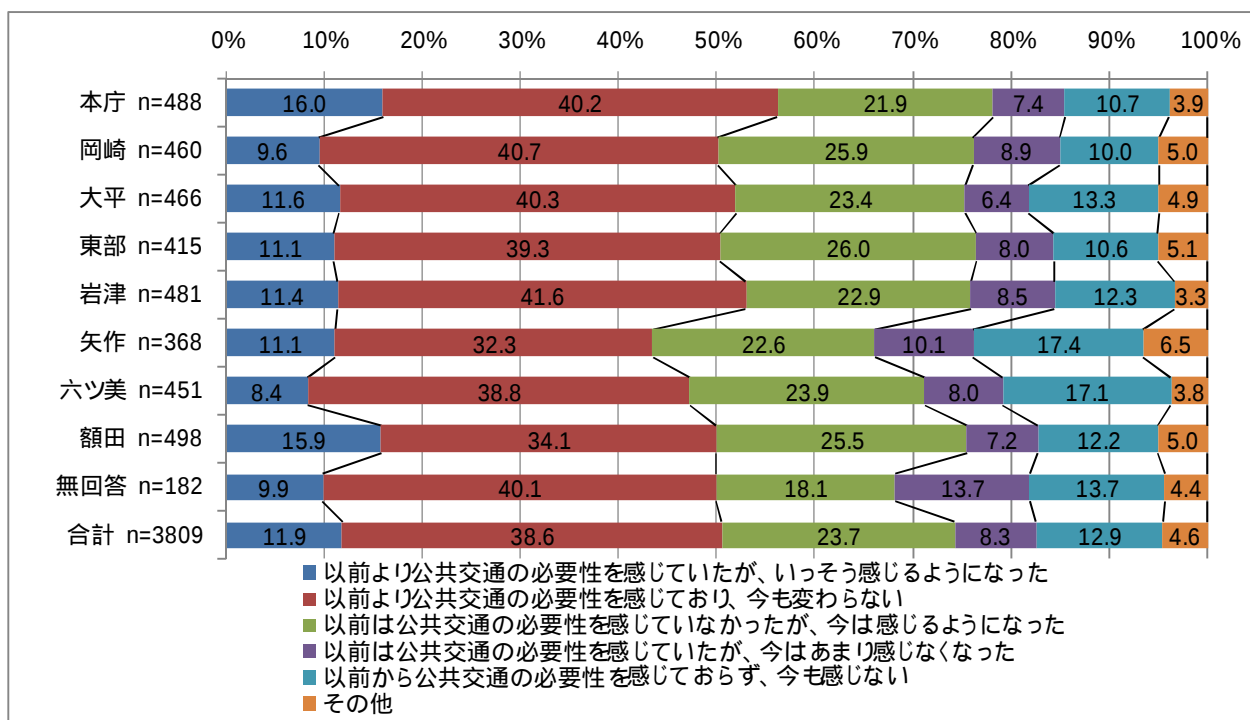


注）単位年→1/12で月に換算、単位週→×4で月に換算

の各種公共交通事業により、公共交通の利用に対する意識は変わりましたか。

「以前より公共交通の必要性を感じており、今も変わらない」とする人が最も多い。

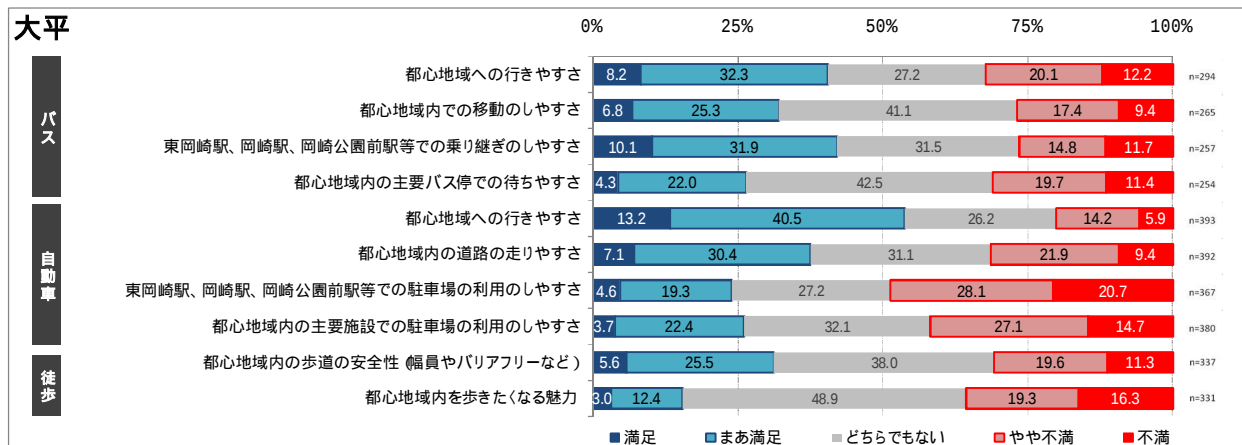
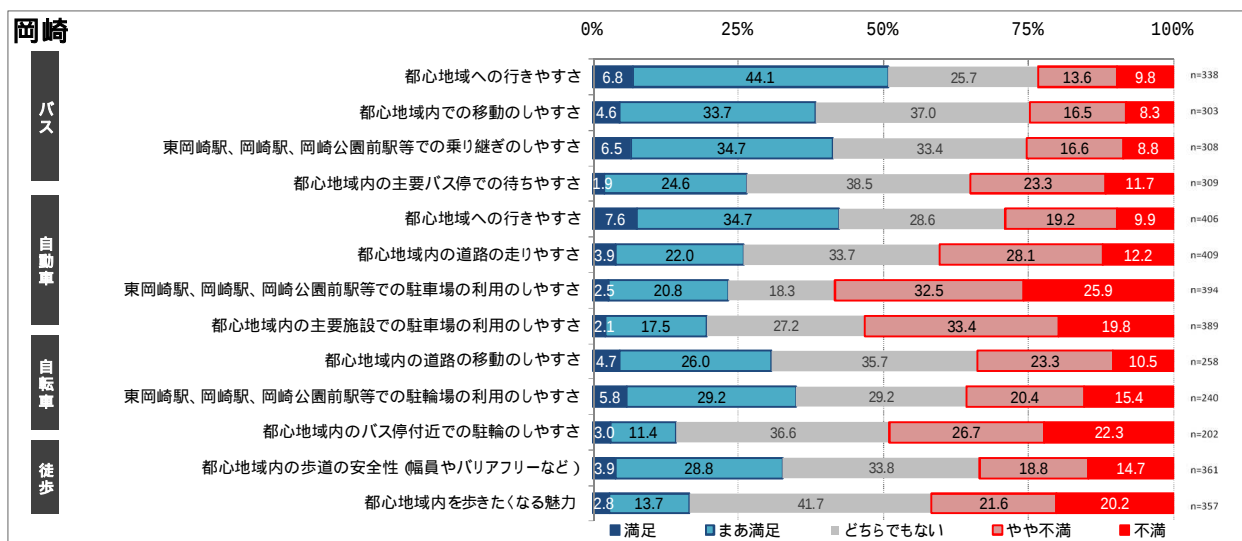
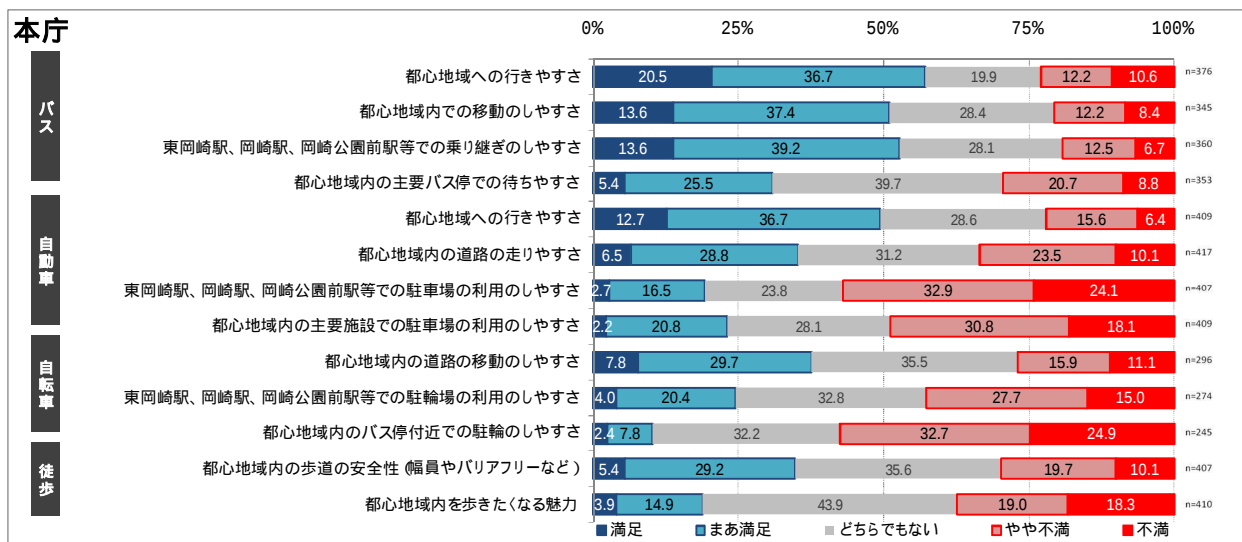
「以前より公共交通の必要性を感じていたが、いっそう感じるようになった」や「以前は公共交通の必要性を感じていなかったが、今は感じるようになった」とする人も多く、約3割強の人について公共交通に対する意識が変わったといえる。



問 5 都心地域（康生地区～東岡崎駅周辺～JF岡崎駅周辺）における各種交通手段の利用環境などについて、～ の項目ごとに、あなたの考えに該当するものを1つ選んでください。

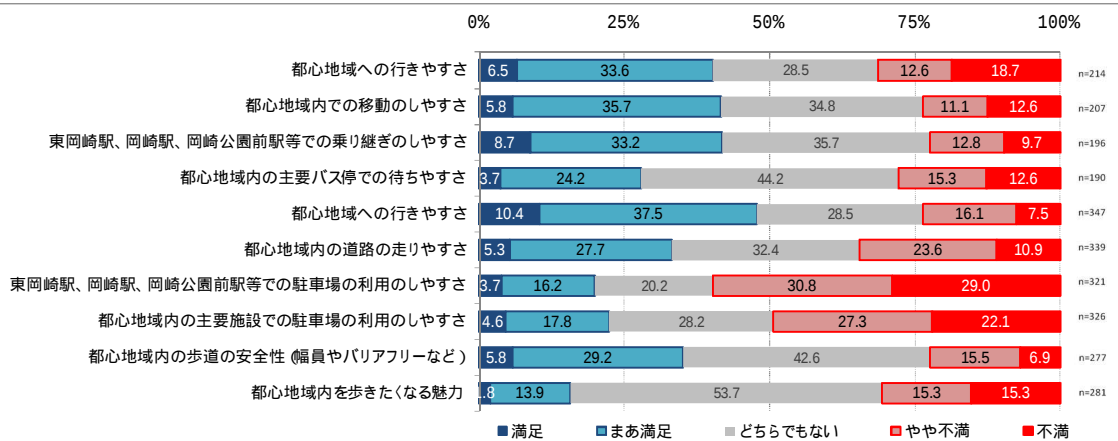
* 該当する交通手段を利用していないなど、わからない場合は「判断できない」を選んでください。

市全体では、主要駅前や主要施設での駐車場の利用のしやすさ、主要駅前やバス停付近での駐輪場の利用のしやすさなど、駐車場や駐輪場に対する不満割合が高い。
バスや自動車での都心地域への行きやすさについては、満足割合が高くなっている。



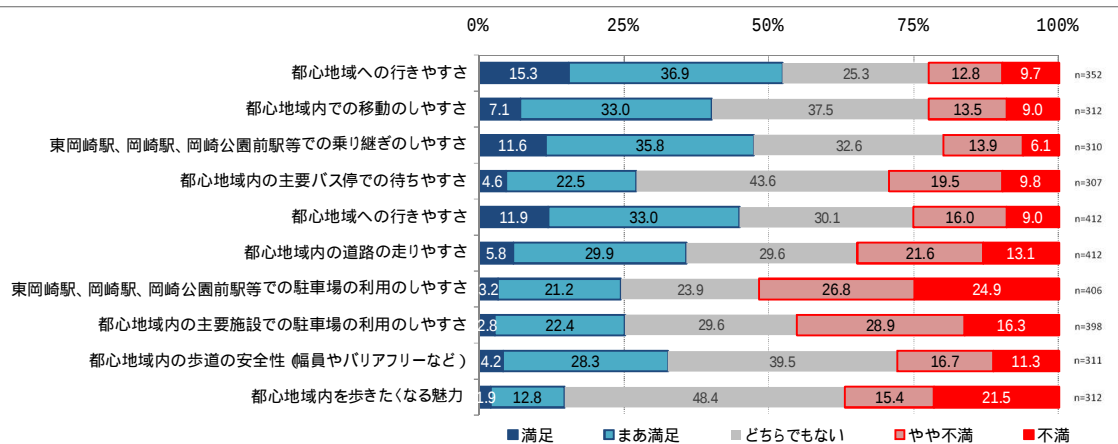
東部

バス
自動車
徒歩



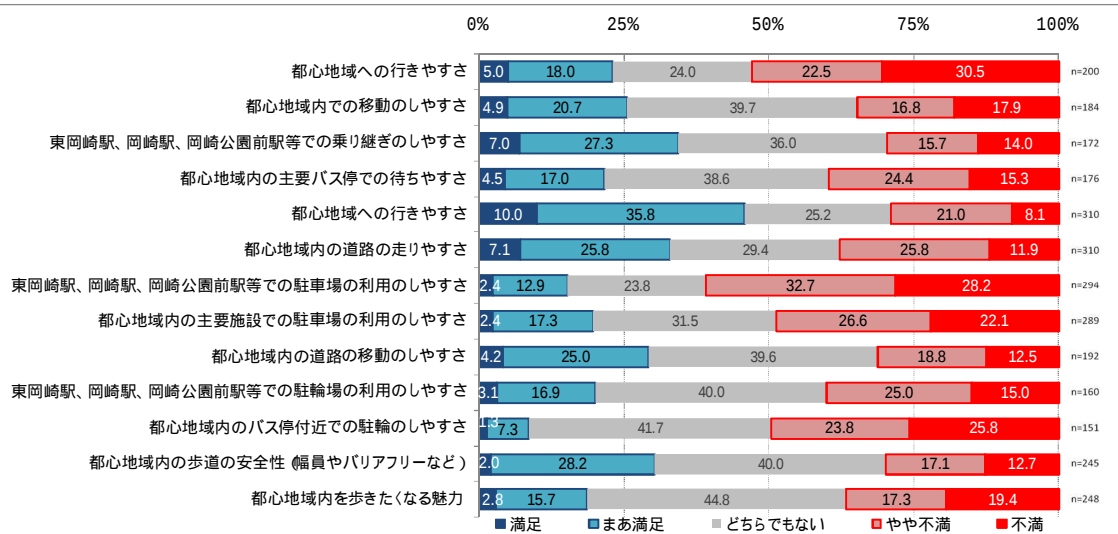
岩津

バス
自動車
徒歩

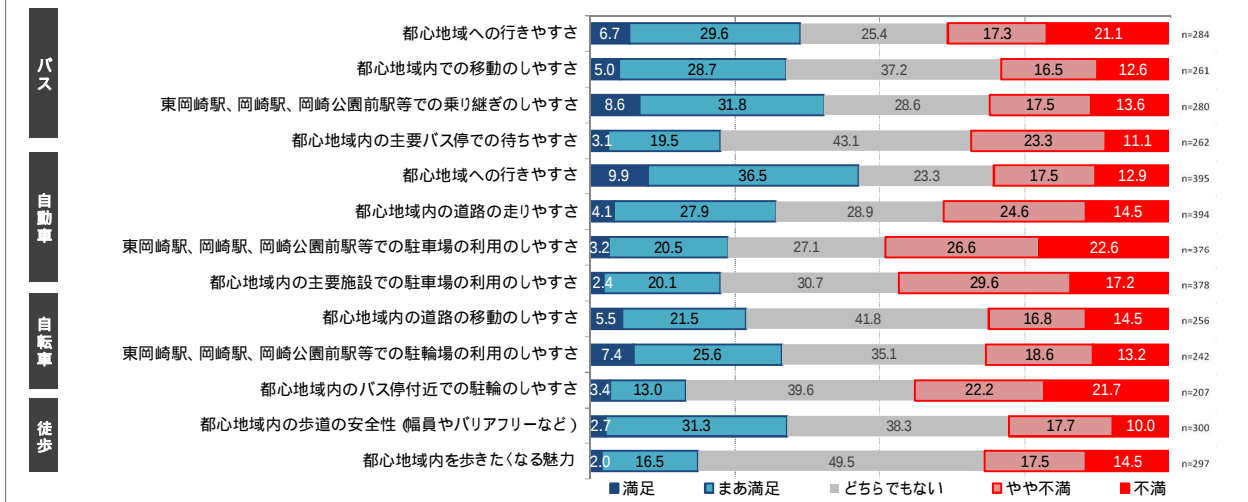


矢作

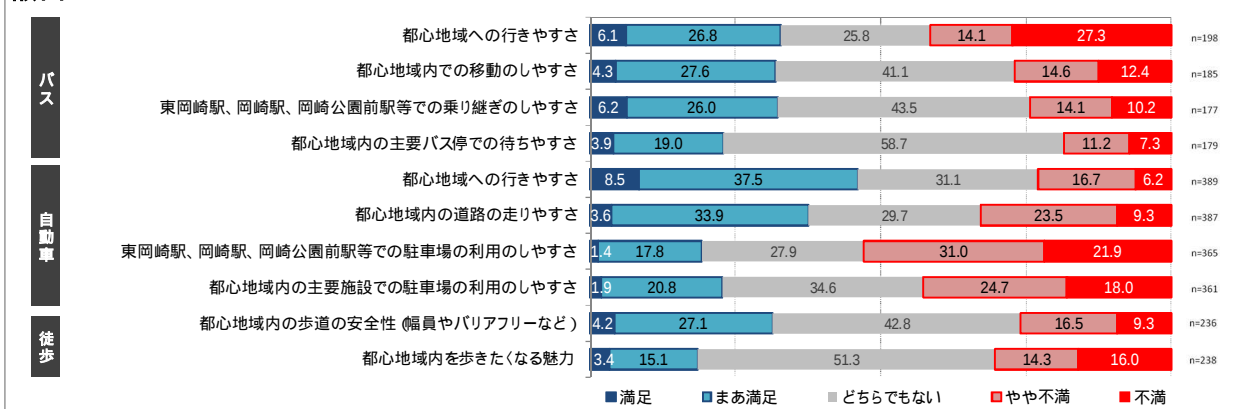
バス
自動車
自転車
徒歩



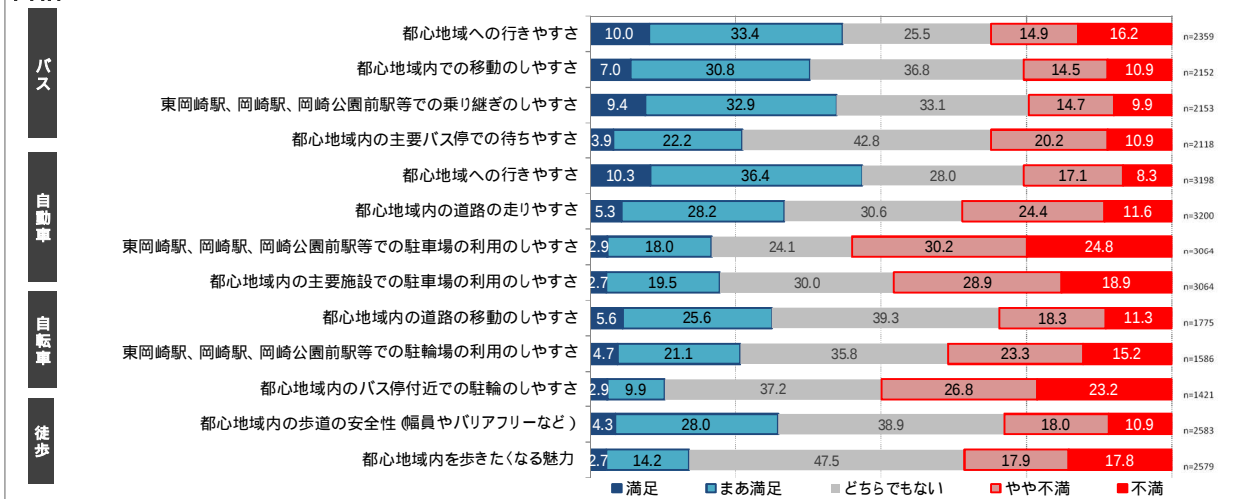
六ツ美



額田



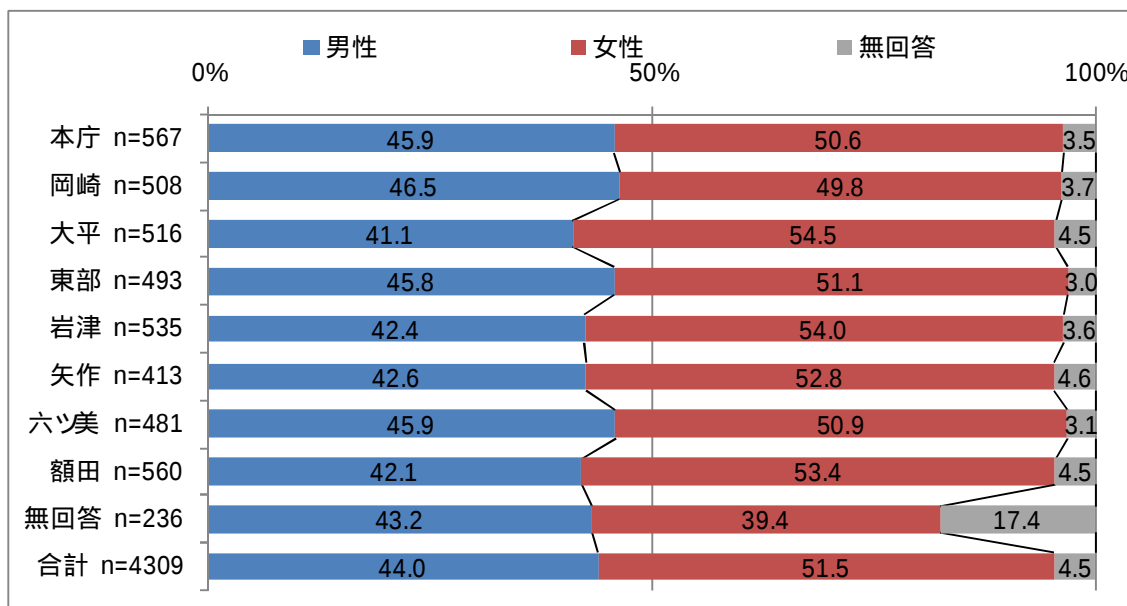
合計



問 6 あなたのことについてお答えください。

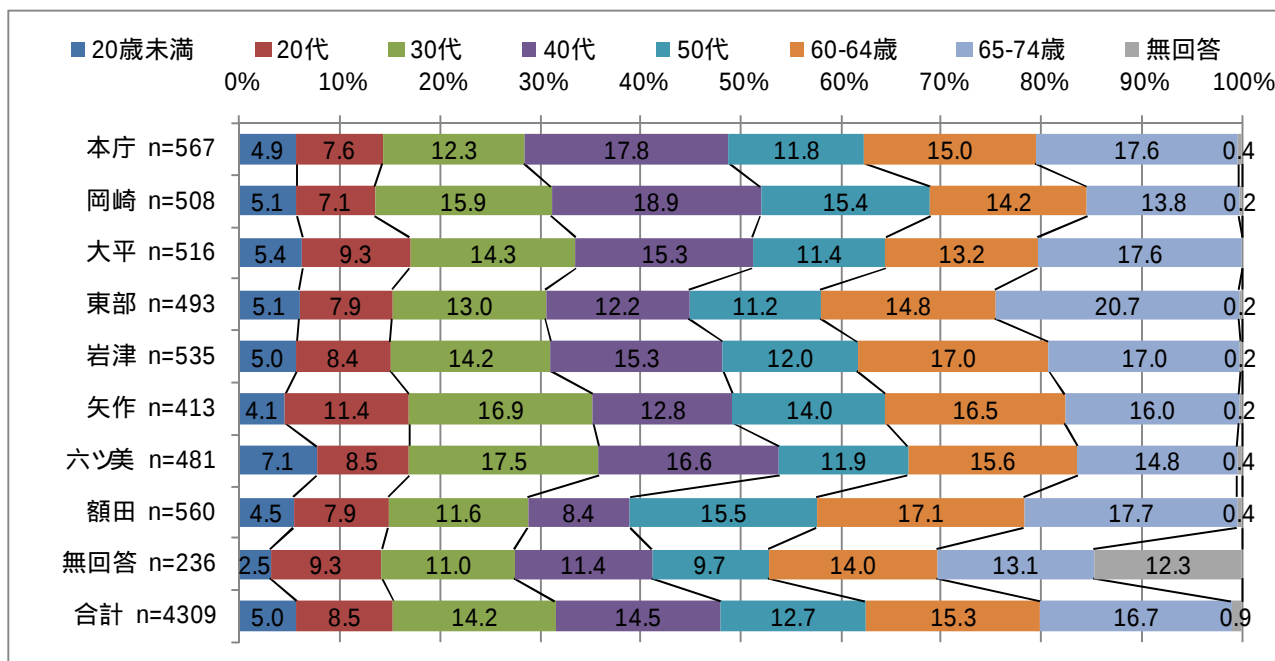
【性別】

回答者は女性が男性をやや上回る。



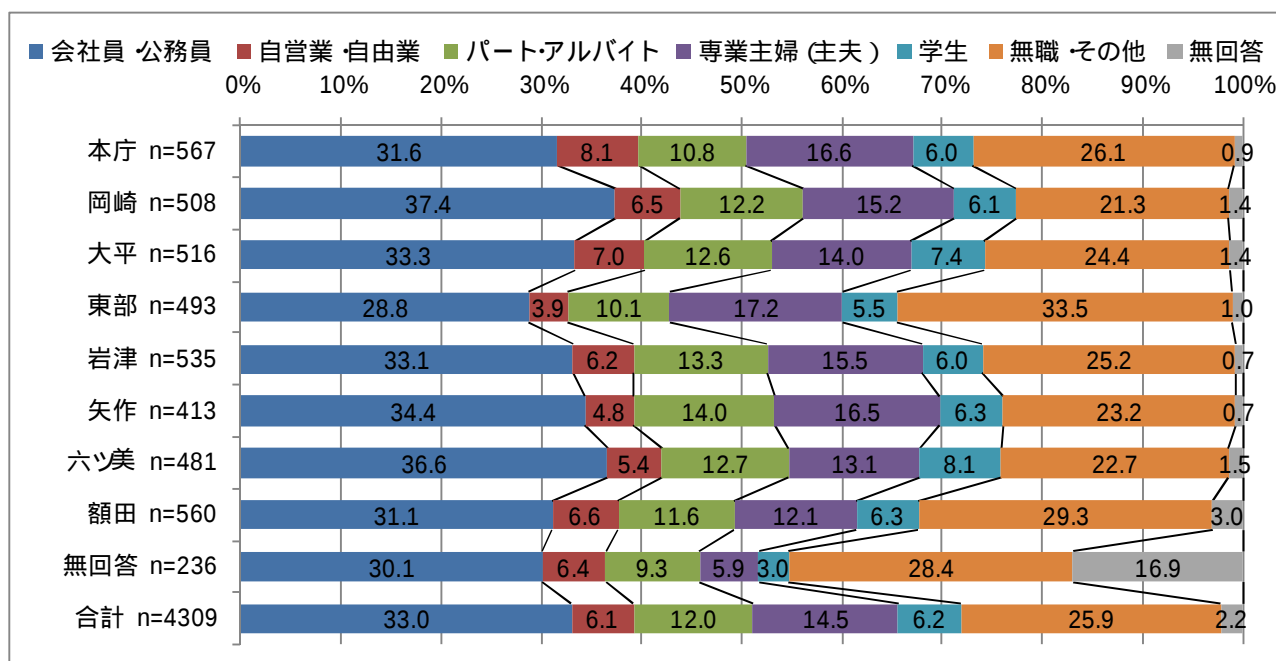
【年齢】

50歳以上の回答者が約半数を占める。



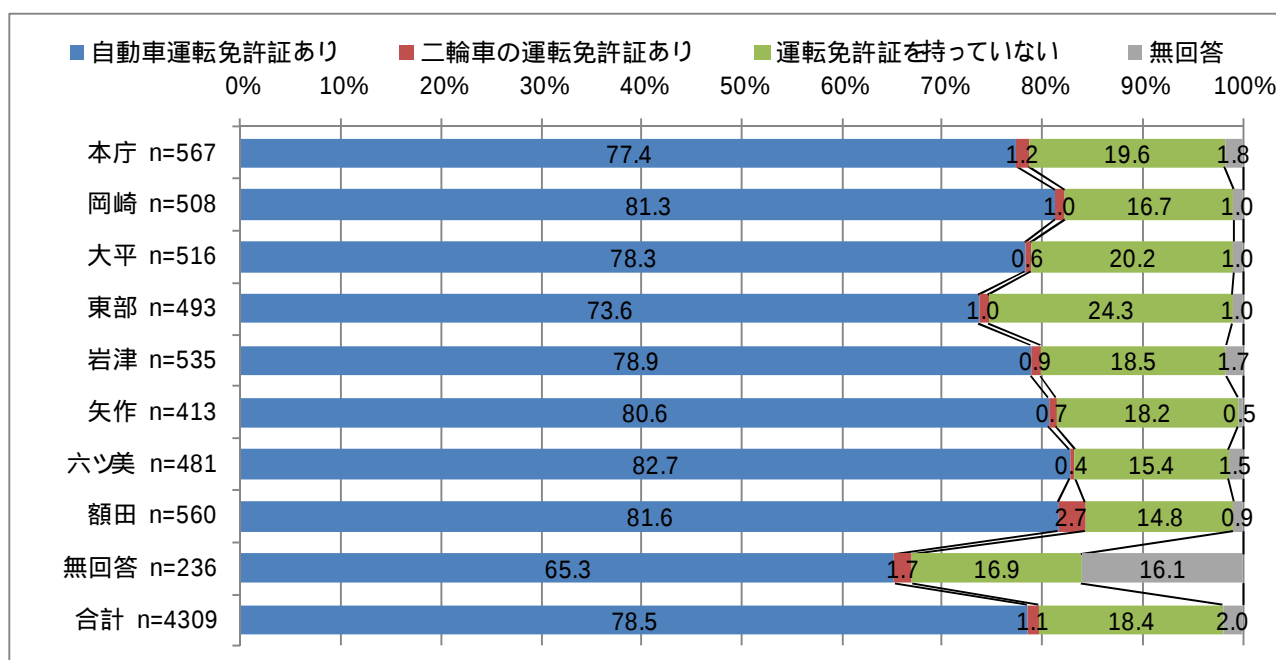
【職業】

会社員・公務員、無職・その他、専業主婦（主夫）が7割以上を占める。



【自動車運転免許証の有無】

約 8割の人が自動車運転免許を保有している。



【自動車の有無】

市全体では約 7 割の人が自分で自由に使える車を保有している。

地区別の保有率をみると、額田地区が 77.1%と最も高く、本庁地区が 64.7%と最も低い。

本庁地区では家族で車を持っていない人の割合が 10.2%と最も高い。

